建築ト社會

第四輯　第九号



靜寂
——「ルーホの秋」——

大正十年九月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ノ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラントス希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成ノ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラントスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會内ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ヲ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ノ會則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ殿會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　殿會其他ノ事由ニ因リ會員ガルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　十名（理事長ヲ以テ理事ヲ兼ヌ）

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭、副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事之ヲ互選ス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　計　一名

二　主　計　三名

三　編　輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書　記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トモスコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應ジ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ臨記委員トモスコトヲ得

當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表スル但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ガ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル調査研究報告ノ發表

二　建築ニ關スル重要事項ノ講演

三　決議事項ノ實行促進

四　會誌ノ發刊

五　建築ニ關スル圖書ノ刊行

六　建築ニ關スル講演會ノ開催

七　建築ニ關スル展覽會ノ公開

八　建築ニ關スル視察

九　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十　理想的建築ニ關スル有益ナル事項

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ス

會員タル承認ヲ得タル者ハ入會金ト納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助員年額金九圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助員年額金六圓ヲ前納スベシ

但六箇月以内ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產積立金ハ確實ナル銀行ニ預入シ又ハ國債證書ニ換ヘ其利子ハ之ヲ積立ツベシ

本會ノ財產積立金ハ會務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月例會ニ報告ス

本會ノ財產積立金ハ會務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得



大阪市東區中道川西町五百六十一番地　電話南三八〇五番

日本エレベーター製造株式會社

營業種目

ヱレベーター、リフト　試運轉
コンベヤー　各種機置
捲上機械　高能保安實驗
クレエン　塔設裝
架空索道及諸機械
右設計及製作

（東松式）

出張所　東京市丸之內東京驛前海上ビルデンゲ六階、六一九號、六二〇號室　電話丸之內九六〇番

特約販賣店　東京市麹町區永樂町　高田商會　本支店出張所

代理店　大連市山縣通百番地　日米公司　電話二二七〇・二〇四五番

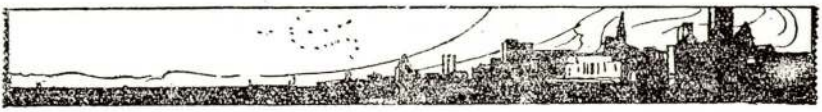
代理店　朝鮮京城府長谷川町八十五番地　日米公司　電話二五三〇番



建築と社會　第四輯第九號目次

▲口繪……（三色版）
靜寂——秋の「ホール」——（寫眞版）
大阪市立「工業研究所」配景圖（寫眞版）
大阪市立「工業研究所」平面圖

〔卷頭〕
○むかし……男爵　後藤新平……二
〔論說〕
○現代の自治生活（下）……醫學博士　宮島幹之助……七
○都市の衛生に就て……大阪住宅經營株式會社　柿崎欽吾……一一
○住宅難の緩和政策に就て……取締役　江村郊邨……一六
○工事豫算公示論……「建築と社會」編輯擔任……一六
〔研究〕
○瀝青質屋根葺材料に就て……工學博士　細木松之介……二六
○請負人が注意すべき權利義務（下）……終身賛助員　有山福重郎……三〇
瀧本辯護士編
〔都市〕
○將來の市加古市(16)……ウオルター・ディ・ムウデイ著　ZY生譯……三五



○現象の大大阪都市（乙）……玄黄子……四八

〔住宅〕

○住宅研究（五）……會員　建築士　工學士　葛野壯一郎……五三

〔講壇〕

○歐米の住宅問題に就て（下）……名譽贊助員　工學博士　直木倫太郎……六〇

○度量衡規格統一に就て（上）……工學博士　佐藤功一……六四

〔資料〕

○都市社會事業と社會事業家（下）……岩村貫三郎……六八

〔漫錄〕

○直木博士の講演を聽きて（中）……會員……A　B　C……七六

——借家人の百癖

○歩いて見て……修生……八一

○半周を歡望して……翠煙生……八三

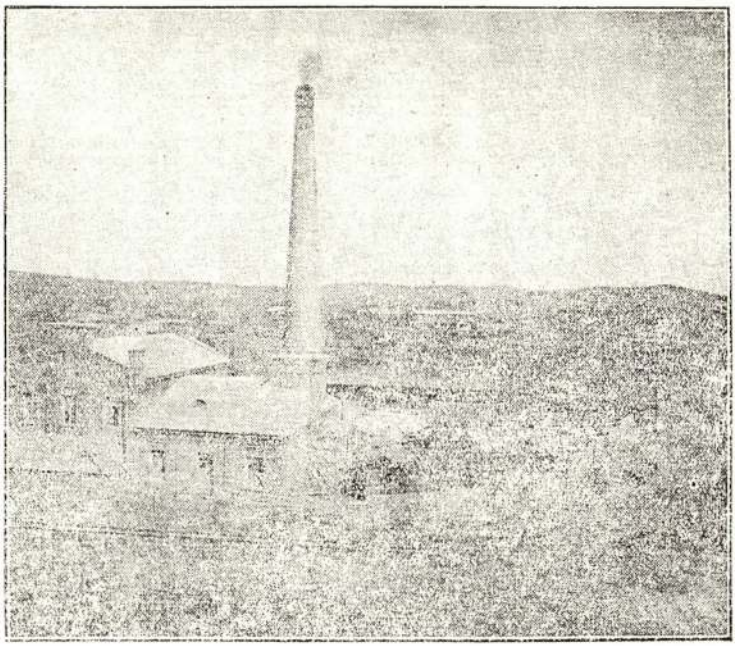
○手輕にして文化的な生活……工學博士　葛野壯一郎氏夫人　葛野しの子……八六

□時報　□會報

現代建築界ノ最高權威

關東廳土木課・南滿鐵道會社・大阪府廳・市役所
其他諸官省・有力土木建築設計家各位・實驗證明

顧問技師　工學士　雨宮泰雄



相談役　前野芳造

營業目的

滿州産

- 青色大理石、黑色大理石
- 鹿兒島産白色硅藻土
- 白色硅石及硅石粉、酸化マグネシューム粉末、滿蒙セメント各種、雜礦石
- 海水石鹼

錦床材料

耐火リノリウム（專賣特許出願中）

耐水、衛生、保温、美觀、低廉

土木建築用防水劑

ボースイ（專賣特許出願中）

品質內外品ニ優リ價格低廉

滿蒙化學研究所代理店

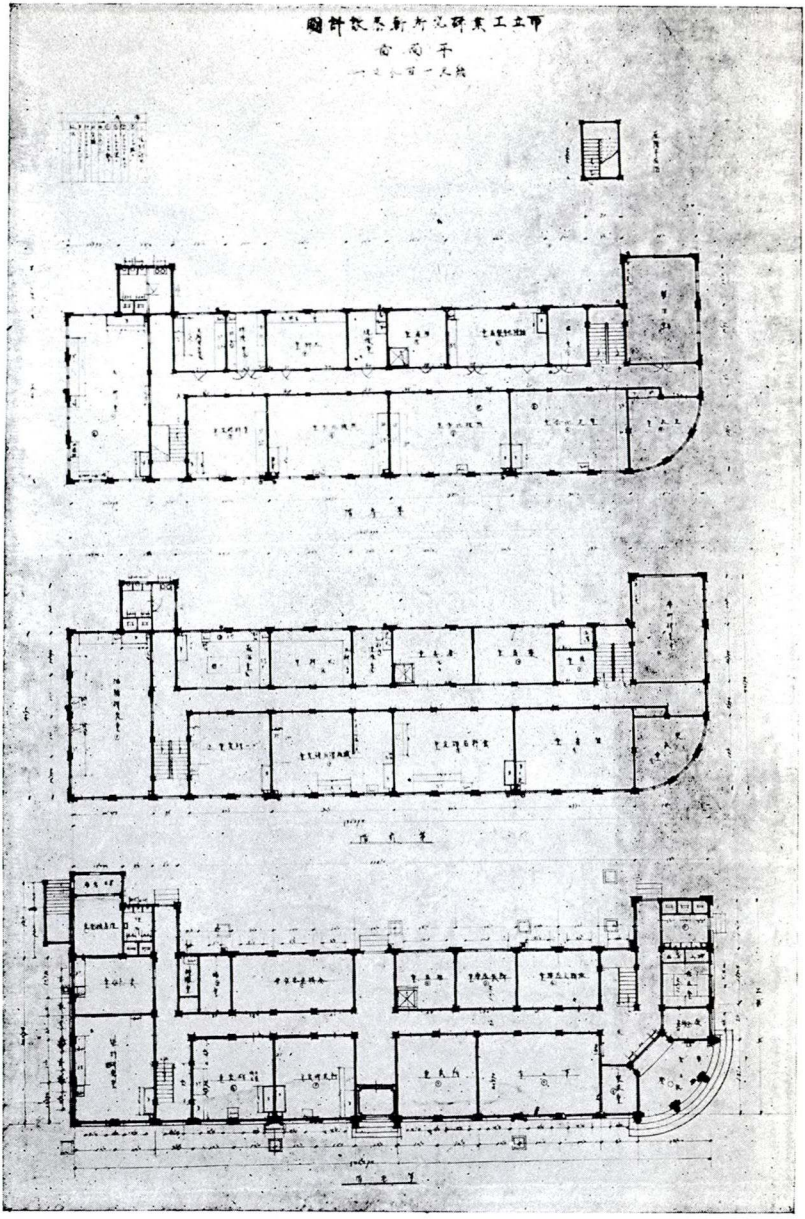
大阪市北區南安治川一丁目十三番地

大阪耐火リノリウム工業合資會社

電話西（營業用　四五九　長二五五四　三六三三）



大阪市立「工業研究所」配景圖



事務所の移轉

當協會事務所を九月一日より左の場所へ移轉致候間此段謹告仕候也

大阪市北區衣笠町九番地

大江ビルデイング内第二階第二十七號室

但し電話は移轉手續中に付當分の間北一二一五番を御使用相成度候

日本建築協會



SEPT.1921

む　か　し

よひ星の青き光は
輝きてまたゝき悲し
靜寂の死のやすらひに
一日はまたも沈めり

—Lenaw—



論說

現代の自治生活（下）

男爵 後藤新平

自ら色々な事を、我には許せ我儘の癖をやつて居て、警察の必要を喚起して警察費を掛けなければならぬと云ふ事になると、自治生活とは言へないだらうと思ふ。果して然らば現代の都市計畫に副へる事を爲し得るや否やと云ふ事も、素より疑問に屬する事であらう。故に現代の自治生活と云ふものは、決して、市役所の中にある所のものでもなければ、市會に在る所のものでもないのである。即ち凡ゆる市民の心の中にある、頭の中に在る、斯う云ふ事になる。凡ゆる市民が自治生活の現代的の、即ち科學的生活の理解すべき方向に行つて、そうして凡ゆる市民の社會的制裁が其處の點に行くと云ふ事になる。又凡ゆる市民の注意が其處に向ふと云ふ事になれば、道路でも家でも、家の中に住んで居る所の生活でも、總てselfcontrol即ち總て自治的生活が出來るのであるから、政府の監督など云ふ事は、必要がなくなるのである。又、政府の法律の及ばざる所のものを、精細に己の自治的觀念を以て滿足する樣にして

行く事が出來るのである。此の時に方つて、亦私の短簡な言葉で言つて見ると、市制の上から、又都市生活の上から言つたならば、さう云ふ觀念を持つて居る所の人は皆立派な市長さんである。形式の上では池上さんが市長さんだけれども、大阪の市民は皆市長さんである。是は、私が最近市長になつて考へても見るし、東京市に二百五十萬の市長さんのある事を必要とする。東京には餘り素人が多くて、東京の市は六ケ敷いけれども、實は東京市に二百五十萬の市長さんのある事を希望する。あるでありませう形式の市長は私一人。茲に於て初めて健全なる發達を爲す事を得るものである。現在が然りや否やは夢物語であるけれども、マアさうなるであらう。大阪も亦然り、現代の科學的生活を爲す所の自治と云ふものを理解する人がズッと並んだならば、是れ皆市長である。所が、かゝりふど根性になつて、水道は市のものだから、どんなにしても構はない、ガツキと捻るのでも充分に捻らないで、だら〳〵と捻つて置く、斯う云ふ樣な事では、まづそこに市長さんが居なくなつて了ふ譯になる。茲に、即ち、自治觀念の甚だ乏しい所に相成るものだと考へるのである。是が段々積つて、其結果自治警察の總ての點に就き欠點を惹き起す事になつて、現代の自治生活に入る事が出來ぬと云ふ事に相成る端緒であると私は考へる。

都市研究會は左樣なる事に就て大に斯の啓蒙の功を積み、都市研究會が之を敎へて指導するのでなくして、都市研究會は問題を出して、諸君に、即ち諸君の趣向を新たにして、さうして、他の者に恩澤を及ぼす樣にするのが、都市研究會の本分であると申して宜しい譯である。

凡そ講演だとか、演說だとか、斯るものは如何なるものであるかと云ふと、どうも攻擊的の、或る者に引付ける事の最も強いものでなくば話に面白味がない、斯う云ふ者がある。研究的の、自分自身にも研究する所の問題となり、人にも研究する所の問題であつて、共に進む所のものが講演の主義である。政談演說の如きは利害の點から勝敗を目的として攻擊するものである。恰度勝負事をする樣なものが、或る運動で勝負をしないものは運動にならないものであつて、どうも勝負事は運動にも面白い、又運動

でなくとも、碁でも將棋でも勝敗があるので面白いと云ふので、是が人間全體の性質であるが、又更に高尚な點からは、研究をすると云ふ事が非常な趣味のある事である。講談と云ふものはどう云ふものであるかと云ふと、政談演説の如きものとは全く其趣を異にするものであつて、其聽いた所のものは各自が各自自身の力、上根下根の差に依つて、非常に異つた結果を生ずるものである。私は都市研究會の會長だからと言つて私は偉い事も何もない、俥屋の親方が引子の歯代を取る樣なものである。又一方から言ふと、我が幹部の人と此の都市の會員から使はれて居る樣なものである。乍併、此の研究會に私が會長となつて居るのは、私自身に紳士税を拂つて居ると考へる。それ紳士税とは如何なるものであるか、之れ即ち紳士税なるものは、金ばかりではない、税と云ふと金の樣に聞えるが、自分が心なり物なり支拂をする、費して行く、心を勞するか物を費すかして、其の酬を取らぬと云ふ所が、紳士税の根本である。處が、此の紳士税を拂ふと云ふ事に就ては日本に於て殆むど二千人の同志を得て居る。是から何人でも得やうと思ふ。大阪に於ても殆ど三百を越す所の同志の人があるのである。そして此の紳士税を拂はれる。此の紳士税を拂ふと云ふ事を大に御奬勵下さるよう私は希望するのである。都市研究會の目的の成功、即ち都市生活の最も健全なる發達を期するのは此處にあるのである。決して是は政談演説の樣に是非私の言ふ説に御賛成なさい。と云ふのではない、彼の橋を架けて上げる、彼の鐵道を敷いてやるから是非そうなさいなど言ふのでない。諸君が御考になつて、成る程助けてやらなければならぬ、あれは考へて見れば、彼れが考へて居るよりも己れの考への方が宜い、斯うしやうと云ふ諸君があれば、それは尚更ら結構である。歌は下手でも聽手が上手で、上手の聽手が聽いて呉れると、其處に妙所を生ずるのである。

大阪に於ける都市研究の事が、今日以後に必ず發達するに違ひない。前段申述べました樣に、都市研究は都市の調査研究に依らずして、其日暮しや臨機應變の事で今後の都市生活と云ふものは完全に發達

する事は出來ないものであると云ふ事に就ては、私は間違ないと考へるのである。故に大阪に於て都市研究會が出來、又都市の調査研究と云ふ事の調査機關が發達するに從つて、市役所抔は迷惑する樣に考へる人があるかも知れぬが、さうでない。市役所の事は寔に爲し好くなるのである。既に市では塵芥處分に就て相當の金を拂つて試驗をして居る、と言はれるが是は何であらう。研究調査をすると云ふのは一の議論ではない。茲に基礎を置く所の基礎が出來るのである。大阪にも種々の調査研究所がある、又染料藥品抔と云ふ事に就ては昨今私は何も關係して居らぬけれども、皆調査研究があるのである。其他社會的の調査研究に就ては、種々な方面に發達し種々なる方面に調査研究もあつて、國際的の關係に經濟の利害等も皆研究せられ、今日の大阪の繁榮を爲して居る所は疑もない。唯斯の事がどの位に現代に要求されつゝあるか、どの程度に在るかと云ふ事は、卽ち滿足すべきか今の程度に滿足すべからざるかと云ふ事は、之れ諸君の胸中に在る事で私は之を評する考でない。而して大阪の自治生活と云ふものは御維新以來凡ゆる都市に比して見て蹂躙せられなかつた。それで今日に於ても東京は大都市であるけれども、大阪は自治的生活、市制、市の行政等に於て、東京よりも進歩して居る。況んや、其他の所よりも進歩して居ると云ふは、現在の當局の努力に由る事勿論であるけれども、是はお世辭ではない、大阪市民の傳統的自治的精神の發露であると云ふ事は疑もないのである。先づ、大阪に來て經濟界に於て大成を爲た人と言へば、五代才助、藤田傳三郎と云ふ樣な人がある。乍併、此の人は大阪に來て大阪化したのであつて、大阪を薩長化する事はしなかつた。是は卽ち大阪の自治生活の今日に出色する所以である。東京などは維新以來薩長の政權に依て自治的生活を蹂躙した、と言つては非常に語弊があるけれども、打壞したと云ふ事は明かである。之れ決して薩長の罪でない、是は政黨的行動であつて、今日でも矢張り其の影響はあるのである。處が維新以後に於て、大阪は東京の如く左樣に政權の干渉が少なかつた、之が爲に此の自治生活と云ふものを壞さなかつたのである。先に申した樣に五

代、藤田の様なものでも大阪化したのであつて、薩長化する事は出來なかつたと云ふ事は、大阪市民の最も強き所である。其の歴史から考へて、完全なる今後の自治を大成し、大阪の大都市生活の健全なるものを採ると云ふ事に、御努力あらん事を切に希望致す次第であるが、是は決して六ヶ敷い事でない、諸君が拂ひつゝある處の紳士税を、モウ一層お拂下さらば容易な事と信ずるのである。（畢）

凡そ誠實なる勞作は神聖なるものなり、

凡そ誠實なる勞作は宗教なり、勞作は即ち敬神なり。

——カーライル——

都市の衛生に就て

醫學博士　宮島幹之助

諸君、都市の衛生と云ふものは何を意味するのでありますか、此の大阪市には不幸にして度々ペストが入り込みました。又或る時はコレラが入つて參りました。乍併、今日の醫學は此等の惡疫を悉く驅逐し得るのであります。けれども、此の都市の衛生と云ふ事は、斯の如き傳染病の豫防ばかりが都市の衛生ではない、モット根本的に遡つて我々國民の健康を保持する所の保健と云ふ事をやらなければならぬ。

私は研究の爲め色々な動物を飼つて居るが、鼠にしてもモルモットにしても、或は兎にしましても、是を狹い所に長い間飼ふて、糞尿の汚染するに任して置きまするど、動物は弱つて參るのである。我々澤山住んで居る此の都會に於ける貧乏の生活は即ちそれであります。

今日或國に於ける糞尿の始末を見まするど、極て幼稚なものである。斯の點に就ては我々は完全な機關を有たない。卑陋の話を申上げる樣でありますが、我々の身體を害する所の今日の糞尿の處分を今少し完全なものにしなければ、人間の價値はないかと思ふのであります。

糞尿が、現在日本に於ては何故に斯の如く放棄してあるか、即ち我國では土地が狹く、人口は多く農作物に肥料が要る、其の肥料として糞尿は使はれて居る、今日糞尿は農作物に於ける大切な肥料として尊ばれる。從つて其の尊ばれる肥料の爲め我々は苦しめられるのである。それであるから今日下水道が出來たとしても、果して之を下水道に流して始末が出來るか疑問である。是は私ばかり考へるのでありませぬ。

佛蘭西の有名な文豪、ヴイクトルユーゴーも其小説の中に斯う云ふ事を言つて居る。『巴里の人間は極めて無駄な費へを爲て居る、それは何かと云ふと、毎日〳〵日となく夜となく、大切で金になる所のものをセーヌ河へ捨てゝ居る、而も之を捨てる爲に、非常な金を使つて居る、是を金に見積るならば一年には一億法の金が浪費される』と云ふ事を言つて居る。それは何であるかと云ふと巴里の人間が排泄する所の糞尿であります。

然らば此の危險にして大切で而も厄介な糞尿を我々はどうして始末したらよいか、是が焦眉の急務である。併し、此の下水道の完成には巨費を要するのみならず、完成には三年五年、或は十年の歳月を要しても或は完成しないかも知れぬ。其の間に若し此の糞尿が段々蓄積致して行くならば、我々は都會の眞中に住みながら、此の糞尿と情死しなければならぬ、甚だ以て厄介な次第であります。それ故に、私は過去十年の間、此の糞尿を科學的に研究を致して、どうすれば最も完全に是を置處する事が出來るか、と云ふ事を調べたのであります。

糞尿を始末する上に於て大體之を分けますと、一方は、之を水に加へて、自然の作用に依つて液體に變化させるのであるが、我國の都會に於ては是を應用するだけの餘地がないので、他の方法を採らなければならぬ。それにはどうするかと云ふと、糞尿を乾燥させる方法である。是は甚だ六ケ敷い事ではありますが、自然界には亦是を救ふ所の品物がチヤンと備はつて居る。その自然界の品物とは何であるかと云ふと、泥炭であります。此の泥炭をよく乾燥して粉末にした物を糞尿の中へ入れるか或は之を混ぜますと、化學的の作用で、糞尿はサラ〳〵した物になつて、殆ど臭氣が無くなるのであります。そして此のサラ〳〵した物は肥料として使はれる。日本には古來此の泥炭を利用した物がないのでありますが、東北地方には此の泥炭が澤山あるのであります。北海道にも、樺太にもあります。糞尿に泥炭を混ぜますと、窒素の飛散が少いので肥料としても有効なものを得る事が出來るのであります。

仍で私は日本に於ける糞尿の應急の處置を致しまして、此の泥炭を利用する事が利益であると思ふ。何故かと申しますと、此の便所の改造と云ふ事は却々容易な事でない。諸君、試に自分の便所を御覽なさい。或は玄關は西洋の通りで、ドアになつて居る、或は往來を見ると、電車が轢る。或は自動車が駛つて居る。けれども、自分の家で以て便所を見れば、御一新前とチットも渝らない、所謂今日の日本人は頭隱して尻隱さず、お尻の方は平氣で居るのであります。此の便所の改造は住宅の改善が行はれる樣にならないと六ケ敷いのでありますが、便所の改造が六ケ敷いからと言つて糞尿を其儘にして置く譯には行かないのであります。泥炭は斯の點に於て最も必要なものでありまする。即ち、之を糞尿の中に振蒔いて置くと直ぐ吸收して呉れる、それをば、ごろ〳〵になつて居るからそれを乾燥してますと、前の樣に臭氣もないものになつてしまふ、之を箱の中に入れて運ぶ事も容易であります。

其の外、此の泥炭の利用は澤山ありますけれども、此處に述ぶる私の目的は、都市の衛生に就て糞尿の始末をする事にあるのでありますから、此處には、此の泥炭の紛末を糞尿に利用すれば今日に迫つて居る所の焦眉の急を救ふ事が出來る、と云ふ事を諸君に申上げるのであります。

終りに臨みまして、私は日本に於てどうも種々の研究者が相一致しない所の研究をする、又話をする、よく私は地方に講演に參りますが、到る所で妙な現象を認めるのであります。或る所に參りますと、私共が衛生の演說を遣りに行つた、さうすると私共の前に農業の演說をして歩いて居る人が百姓に向つて、人の糞尿は肥料として大切なものである、金になるものであるから、大切にしろと云ふ事を頻りに言つて居る。後から行つた所の醫者は傳染病の傳染するのは糞尿であるから、此の糞尿を消毒しなければならぬと云ふ事を說き廻つて居る、一方は大切にしろ、一方は危險であるから早く始末をしろと云つて、其の間に百姓はどうして宜いか判らない。それは何の爲であるか、即ち我々研究に從事する者は馬車馬的である、廣

く見ない、從つて他の人と相連絡して一つの問題を解決すると云ふ事の能力がまだ發達して居らぬのであります。處が、都市の改良を宣傳されて居る所の都市研究會は、凡ゆる方面の專門家がお集りになりまして、都市改良と云ふ事の一つの問題に就き相連絡して斯の問題を解決されると云ふ事を見まして、都市改良と云ふ事が必ず成功するであらうと信ずるのであります。（畢）

人は其自ら爲せる
事業の小兒也。
（サルワンテス）

住宅難の緩和政策に就て

大阪住宅經營株式會社
專務取締役　柿崎欽吾

▽住宅の缺乏殊に中流住宅のそれは、殆むど我都鄙を通じての現象であると仝時に、世界的一種の饑饉とも謂ひ得よう。曩日、英國政府抔が、世界主要國の代表者を首都に集め、住宅補充政策に就て會議を催せる外、英政府自身は既に住宅補充の大政策を決し、全國に亘りて、五拾萬戸？といふ大規模建築の實施に力を濺ぎつゝあるのは、一面に於て、住宅缺乏といふことが、奈何に世界的大問題たるかを語るものである。

▽我邦としても、殆むど各都市が、都市社會政策の一科として、住宅供給に向つて相當な力を施しつゝあるは、單に住宅の保健又は保安其他文化的改善を要するといふ問題よりも、寧ろ、住宅の缺乏其ものに對する當面の政策が、住宅問題を攻究される焦点であるかのように考へられる。

▽勿論、住宅の建設に就ては、其建設と同時に、住宅に關する諸般の改善をも考慮されることであらうが、何にしても、先づ、住むに家無きといふやうな慘狀より救濟することが當面の問題である。我大阪市に於ても、現に、所謂細民住宅問題の如き主として改善すべき問題もあるが、それよりも先づ差當り貳萬戸許の住宅缺乏即ちそれだけの家無しの人々を奈何にすべきかが問題である。

▽斯る缺乏は、まさか、直ちに、雨露を凌ぎ得ないといふような慘狀は呈してゐまい。それ相當に何とか方法を講じられてゐようが、取り敢へず想像されることは、現在の住家に對する居住人口の膨脹であり、隨つて、保健關係の惡化である。云ひ換ゆれば、或場合は一戸に於ける人口の密度が濃厚と成りて、健康其他居住より享くる福祉を滅

殺するといふ結果を生むのである。

▽されば、現在に於て、住家の缺乏なる事實は、單り住宅の不足といふ現象許りでなく、他面には都市民としての生活の享樂を障碍し、脅威する處の事實が行はれつゝあると云つて可い。斯くて、今更ら申すまでもなく、住宅問題の奈何に重要なるかを思はざるを得ない。

▽住宅組合法規—組合法、施行令、施行細則、其他の命令—は、斯る缺陷に對する救濟法であるは申迄もないことであるが、斯法の効果に就て多少疑はるべき点は、それだけにより、果して所期の目的を達し得られるか、どうか、といふことである。

▽斯法によりて、所謂低資に建築費の融通を仰ぐとするも、住家は、只單に建てた許りで、住宅としての能動性を有するものでない。住宅には、素より敷地が比較的大きな問題であると同時に、場合によりては、敷地に多くの加工を爲すことを要し、建築資金の關係に於て、是が、決して輕易な問題でない。

▽其他、勿論、道路を要する、電燈や、瓦斯、水道等、幾多の文化的施設をも要する。位置の關係では、交通、敎育、市場、診療等諸機關の設備をも要する。斯樣な施設は、果して、個人の組合つた樣な事で、而も建築費の融通資金をみ財源として、到底營爲され得る譯なものではない。

▽即ち、住宅其ものゝ建設よりも、居住としての補充的諸多の條件こそ、却つて、資金關係上の重大な問題である。要するに、斯る條件を、其重要さの程度に於て補充することは、個人として、縱し數名數十名組合つたとて、却々の問題である。

▽仍て、住宅組合法の實施は、宜しく機宜に適せる政策ではあるが、是に藉りて、或組合さへ作らば、先づ住居を拵へることが容易に出來るといふ譯ではない。少くとも、其實行性に於て彼樣に充分でない点があると思はれる。

▽斯く考へ來ると、少々手前味噌のようではあるが、我住宅經營會社の如き、公益に立脚して、ヨリ低廉にヨリ快適な、そして、諸般の文化的施設を伴へる住宅を供給するような資本團體の多く起ることを希望せざるを得ない。

▽這回、政府は、別に『住宅建築會社法』制定の議あるようであるが、其骨子は、或條件の下に設立されたる建築會社に特殊な保護を與へる、といふに在るらしい。併し、或範圍に於ける獨占的な保護を與へて建築を遣らせるのは、政策として、奈何なものかと思ふ。

▽それよりも、寧ろ、現在遣つてゐる處の建築資金の融通を、今一段圓滑に、又其額を擴張し、そして、成るべく取扱を簡易にするようになし、一面我社の如き住宅供給會社、而も實際に困憊隱忍の裡に在る中流生活者、主として Salaried man を對象する住宅會社の設に起るよう奬勵を爲し斯くして、特權又は獨占的でなく、一般に然るべき保護を與へるようにしたらば、と思ふ。

△低利資金の如きは、現在に於ては、僅き簡易保險抔から融通してゐるようであるが、場合によりては、利率の差額を政府が補充するといふ原則の下に、政府の保障によりて『住宅公債』とでも云ふようなものを發行し、前に述べたような英國式の大英斷に出でなくとも、せめては、資金を弘く大きく融通するように、政策を執つて貰ひ度い。

▽最近の調査に據ると、住宅組合法の實施されて以來、全國に於ける組合設立數は約二千六百にして、低資融通申請が、約一億五千萬圓に達し、是によりて、約四萬六千戸を建築することになつてゐるが、是に對して、大藏省預金部及び遞信省貯金局よりの資金融通に俟つ筈なるも、兩省は、到底是に應じ能はざる結果、內務省は、差當り、二十坪乃至二十餘坪位の住宅建築に對してのみ融通する、といふやうな瀰縫策を採つてゐる。

▽斯の一事は、折角の住宅難救濟法も、その實効を發揮し得ない事實を物語つてゐる。政府は、此際何とか一大英斷を以て、資金の融通に關する徹底した政策を採るでなければ、問題は多々增々其濃度と輪廓を增して來て、結局は英國の如き住宅難の事態に立ち到りはしないかと考へられる。

▽近頃の外報に據ると、伯林市の如きは最も酷い住宅難のようである。伯林市中は、每夜少くも五六萬人の露宿者があり、一家族二人以上なれば一人一室の外に余分の室を有し得るも、それ以上の

居室を有するものには、苛重な租稅を課せられるとのことである。

▽我邦としては、奈何に住宅の缺乏を憂ふるとも彼様な慘狀に立ち到るような事はあるまいと思ふが、何にしても、我邦の現狀は、住宅に關する大策を決すべき時機が逼つてゐるのである。爲政當局者としては、住宅組合法の外、借家法、借地法の實施、次いで、建築會社法の制定を計畫せる等其用意は多とするも、前記の如く、差當り、住宅組合法の運用に方りてすら、資金關係の不圓滑なる爲、今一入、所期の効果を獲難きの觀あるは、果して奈何なものであらうか。

△併し、住宅難の實相を、只其外面丈け見れば、問題は極めて簡單で、即ち、全体としては一國の人口が、都市としては、人口の集中が、增々膨脹する結果であると解して、どし〳〵住宅を建てれば、問題は容易く片付いて往くのであるが、住宅難の原因は、單に斯る需用と供給の均衡關係だけではない、其根底に突き入ると其處に種々な原因が潜むである。

▽僅に其一例として、例へば、經濟的に發達したことも其一つであらうが、就中、群居若くは共住生活より離れて、自己は自己として自由に生活の享樂を味はむとする處の、所謂文化的覺醒も亦其一原因とも謂ひ得られる。

▽されば、住宅難の解決といふ事は、必ずしも、敢て家を建てることさへしたならば、それで可いといふ譯なものではない。故に、解決策には、其原因に深く突き入つて、所謂其病竅を剔抉するでなければ、恐らく、住宅難は永久な問題であろう。

△けれども、是は、却々容易に解決し得べきものでもなく、又餘程研究を要すべき問題である。左りとて、住宅缺乏に基く幾多の不祥事は、之を極端に云はゞ、刻々に醸成され表現されつゝある、といふも不可なき實狀だと想ふ。

▽仍て、先づ、取り敢へず、現在の住宅缺乏に對する處の解決案、是は寧ろ、緩和策と謂つた方が適當であらう、斯の緩和策は現在の『住宅組合法』の施行を、充分に効果あらしむべく其運用關係官署の英斷的措置を望まざるを得ない。是と同時

に、單に少數な特殊會社で或獨占的な特權を與へて住宅建築を奬勵するよりも、我住宅會社の如きものが頻出するように、何らかの政策を採られたいのである。

▽幸にして我社の外、例へば北濱土地會社、安治川土地會社、或は何々と隨分共、住宅經營の機關がある上に、是れ等は、それ〳〵皆特殊な點を有してゐるから、我社と共に住宅の緩和に向つて多少貢獻出來得ようが、現在の住宅問題の大勢は、とても斯區事で追つ付く譯でないから、尙ほ斯る供給會社抔の類起するを望む。

編輯記者附言　本編は、記者が柿崎氏の談話に基き稿を成したるものにして、文中或は氏の意に滿たざるものあるやも計り難し、然る場合は、勿論其責任は記者の負ふ處也

茲に二事あり、互に背反するもの〻如しと雖も、亦互に相並んで行かざるべからざるものなり。何ぞや、

即ち堅く人に依賴すると、

堅く自己に依賴する事二事是也

工事豫算公示論

『建築と社會』編輯擔任　江村郊邨

斯の一編は、官公署が執行する處の、工事の豫算を公示せよといふ意味な卑見でムいます。隨つて、一私人や一私法人即ち會社抔の工事豫算に就ては、勿論本編の關する處ではムいませぬ。そして、斯の卑見を物することが、建築請負業界の方々に、どれ程な利益を産むか、乃至は、却つて御迷惑であるか、それは、わたくしの識らざる處でムいます。只、わたくしは、是ぞ眞理である、まつたく合理である、といふわたくしの考への儘を申上げる迄でムいますから其積りで讀むで頂き度い。若も、斯の一編を讀むで被下いまして、倖に御共鳴被下つても、又は、不幸にして反對な御高見に接しましても、それは、寧ろ、兩者共、わたくしの敬迎する處でムいゃす故、採るにも足らぬ斯の一編に對して、葉書でなりとも、御感想を御示し被下ば、光榮の次第と存じます。

仍で、本編は、之を、純理と實際の二つに分けて、考へてみたいのであります。純理とは即ち正道でありまして、眞に豫算の學理的性質に忠ならむが爲には、どうしても、所論の如く、豫算を公示すべきが妥當でありますけれども、今之を實際に行ひ難いものであるならば、せめては、此の豫算の性質に、成る可く適合するやうな取扱ひを要するのでありまして、是が、右の『實際論』即ち權道であります。何は兎もあれ先づ、左に純理的見地より、わたくしの卑見を申述べてみましやう。

(甲) 純理論

——A——私の臺所と國家の臺所

——飛むだ間違ひの序幕——

□工事豫算は、今此處に事新しく申上げるまでもなく、從來の實例と致しましても、絶對秘密主義に立脚して、何處までも、是は公示すべきものでない、といふ關係に置かれた許りでなく、其豫算執行當局者以外には、之を知らしむ可からず、といふ風に、豫算其ものを解し、又、それが合理な事である、と當局者は考へてゐるやうに、わたくしは解して居ります。

□是が、抑も、當局者の間違つてゐることを、わたくしが、此處に指摘せむとする焦點でありまして、而も、斯る間違ひは、單に豫算其ものに對する觀念が間違つてゐる許りでなく、是は、寧ろ、或間違つた觀念から產まれた處の副次的な觀念に外ならぬことを申上げ度い。即ち、何にしろ、兎も角、當局者の、工事豫算秘密主義は、飛むだ間違ひであることを申上げ度いのでムいます。

□それは、先づ第一に、國家の財政、乃至は、市町村の如き公法團體の財政を以て、恰もわたくし共一個人の臺所と同樣な觀念に出發した結果か、左なくば、得て斯ういふ觀念に制御（コントロール）せられるのではあるまいか、是が、先づ第一に、豫算其ものゝ性質を謬り見る原因であらう、とわたくしは想ひます。要するに、私の生活と、國家又は自治團體抔の生活を、殆むど同樣に見るべく謬られた結果でありましよう。即ち、豫算とは、私共の臺所の支拂ひと同樣に、等しく金錢を支拂ふ事であるから、金錢の支出といふ普遍的なる事實から、矢張り、それに對する觀念も、同樣な考へに影響されるのでありますまいか。

□「入るを量つて、出ずるを制す」といふ諺は、わたくし共の生活に於ける經濟上の標語（モットー）であることは、先刻御承知の通りでムいます。是は、申す迄もなく、わたくし共の經濟生活は、其形式が、第一に『收入本位』であつて、『消費本位』ではないからであります。尤も、御案內の通り、曾ては

サンシモンやフーリエ抔によりて畫かれたやうな空想的社會主義（ユートピアソシアリズム）が完全に實現致しまして、わたくし共御互に、道德的な埒内を脫せず、其欲するが儘に、生活上の慾望を充足し得るやうな時代ならば、何もそう彼樣な標語（モットー）に制限されないで濟むでしようが、少くとも、貨幣經濟が人間生活を制御してゐる限り、要約すれば、所謂世智辛い限り、わたくし共は、どうしても、『件の先づ入るを量つて』そして『出づるを制する』處の經濟生活ならざるを得ないのでムいます。

口そうすると、等しく貨幣經濟に累せられてゐる處の、國家や自治團體抔の生活も、亦等しく、斯る標語の範圍でなければならぬ筈でムいますが、實は、其反對なのが眞理であります。即ち、彼れは、所謂『入るを量つて』でなく、其反對に、『出づるを量つて』そうして、彼れは、其『入るを制する』のであります。

口云ひ換へるならば、彼れ國家又は自治團體抔の經濟生活は、わたくし共の收入本位に反して、寧ろ、消費本位だ、と云つて可からうと想ひます。即ち、わたくし共は、無限な慾望を充たす爲に、ヨリ多くの貨幣を蓄積し運用せなければなりませぬ。今日の社會組織では、到底、必要な物資すら之を獲得するに、其手段たる貨幣を獲る事が却々容易でない。仍で、吾々は、現在としては、どうしても——道義を無視する意味ではない——收入本位に生活を寄せねばなりませぬ故、其處に、所謂『入るを量つて、出づるを制する』の標語が出來る所以でムいます。

口然るに、國家抔の、其國家又は自治體としての生活は、其團體員の上に超越して、國家抔それ自身が富み、又は飽くなき慾望を充たさむとするといふ事は、何の意義をも成さない考へ方であります。又、斯くして、貨幣を蓄積するとか、物資をヨリ多く貯藏するとかいふ事も、勿論、何の意義もない見方であります。何故ならば、國家又は自治體抔も、一個人と等しく有機的に生活を致して居りますと同時に、國法上に於ても、一個の公法的人格者として生存し活動をなして居りますが、彼れの生活は、彼れ自身の生活であると同時に、

實は、わたくし共個々人の生活なのでムいます。即ち、わたくし共の生活を統一し、之を歸納して其處に國家の生活、自治體の生存があるのであります。

□彼樣な譯でムいますから、國家抔の生活上に要する物資は、それ等團體の共通の目的であり乍て其團體自體の目的である處の、團體員の福利を圖るといふ上に於て、其慾望を充たす爲には、どうしても、所謂『出づるを量る』か、或は『要るを量る』といふ觀念の上に立たなければならぬのでムいます。然らずして、若も、國家抔が、一個人の臺所流義に、『入るを量つて』支出を手控へ躊躇するやうでは、國民又は自治團員の、其團體的結合に藉りて達せむとする目的を、遂行し得ない結果は、申す迄もなく、其團體員各自の不利不幸許りでなく、團體其ものゝ存在價値を、實は疑はざるを得なくなるからであります。

□斯ういふ見地から致しまするど、國家抔は、其生活に必要な程のものは、どうしても獲なければなりませぬと同時に、必要以上に獲得し又は蓄積する必要もないのであります。わたくしが、此處に申述べむと致しまする處の、『工事豫算の公示』なる事も、斯の理論に根柢の一つを有つて居ります。即ち、國家抔が、或一工事を營むに方り、其工事豫算なるものは、是に藉りて、其の國民——自治團體員——抔の福利を增進し得るとか、又は災害を除却し或は之を豫防して、其碍害され又はされむとする處の福祉を恢復し、若くは維持し得るといふ目的が徵象され、同時に、其遂行に要する價値が、斯て其豫算額である、と謂つて可いのであります。

□されば、ほんとうの處は、其豫算は、何も投機的に或は僥倖的に、成るべく喰ひ延ばす、謂はゞ國家が消極的に『儲ける』譯なものではない、云ひ換へれば、豫算額は、或福利の維持又は增進手段の最高限度を決定せるものであると同時に、其最少限度を示したものである。要するに、豫算額は何處迄も豫算額で、是を全部供用する處に、それに藉りて、達せむとする目的の全部がある、とも謂へます。左なくば、即ち豫算喰延しは、國家

杯が、豫算といふ形式に藉りて達せむとせる目的の一部を缺ぐか、或は、盲目的な行爲である事を暗默に語るのか、乃至は、一種の投機を遣るのか其一つでありましょう。是は、勿論、豫算の性質として容すべからざることでありますから、豫算は矢張り上記の意義を有つものとせば、工事豫算を秘密に爲し、成るべく喰ひ剩す事に努力するのは、其根本の觀念を間違つてゐるのである。故に『工事豫算は之を公示せよ』と斯う申し度いのでムいます。

——B——　財政學者は何んだと申して居ります？

——矢張り同感だと——

□財政學者は、『收支の適合』といふことを申して居ります。收支の適合とは、文字通り、收入と支出との間に、過不足のないやうに、豫算を立てゝ之を實行することであります。そして、若し收入に過剩を生じた場合、其過剩が恒久に亘る性質を有する限り、是に依り、經常收入を減ずるの方法を講じて、國民の負擔を輕減し又は整理することに振り向けねばならぬ、と申して居ります。即ち前述の通りに、國家抔の臺所は、一私人のそれと異つて、必要なだけは、どうしても收入を圖るが必要以外は決して收入主義に立たない、といふ原理に裏書したのであります。

□更に、財政學者は、豫算の性質を解して、『一會計年度に於ける收入及支出の見積り』だと申して居ります。見積りとは、其計上額以下を以て收入又は支出するといふ意味ではありませぬ。見積りは何處迄も見積りで、收入支出の最低限度を取り決めたのでもなければ、最高限度を定めたのでもない、其見積り額通りに收入し又は支出する、といふ意味に外なりませぬ。若しも見積りなるものが、最低限度であつたり最高限度であつたりするものであるならば、其處に伸縮不定な關係を生じて、財政の確實性といふものが甚だ怪しくなつて來ます外、所謂收支の適合といふ事も出來ない筈でムいます。

□彼様な譯でムいますから、例へば、或工事に對する工事豫算額なるものは、國家抔が合法的に其額を決して施行する以上、其額で工事を實施するといふ國家意思を決定したのであります。即ち、其額以下でといふ意味でも、又は以上でといふ意味でもありません。其證據には、國家抔が收支するに就ても、等しく豫算と稱し乍ら、其自然增收の外は、豫算額以下でもなければ以上でもなく、何處迄も豫算通りの收入例へば租稅を徵收するではありませぬか。

□それは、畢竟、豫算は何處迄も豫算で、其通り施行するといふ意味に外ならぬのであります。斯る見地から申しまするならば、工事豫算額を、競爭入札抔で、成るべく豫算額以下に實施し、それだけ剩餘を見むことを圖るのは、抑も間違つた考でムいます。權限ある機關が、相當な手續の下に合法的な豫算額の決定を爲した以上は、其通りに執行するのがほんとうではありますまいか。論より證據、若し競爭入札の最低價が、豫算額を超過したる場合、當局者は到底豫算執行が出來得ないではありませぬか。協定以外、更に追加豫算といふ名目の下に、實は豫算の組替へを爲して、其結果は豫算通りな執行を爲すではありませぬか。

—C— 張ッたり屋式の豫算

ではあるまい

—豫算編成の權威は奈何に—

□例へば、或工事の豫算を編成するに方りて、其當局者は、大まかに、まあー此の位で行けるだらうてな杜撰にして粗大な編成を遣らない事は吾々の信ずる處でありまして、寧ろ、當局者の豫算は、其內容を竭した最も權威あるものたる事を確信するのであります。即ち、豫算當局者は、其消息に最も明るい人達なることも疑いませぬ。然らば、其豫算額は、自然の或影響なき限り、それ以下で工事の出來得るものでもなければ、勿論それ以上をも要しない、といふ事の實質を有つてゐる筈でムいます。

□そうであるならば、其豫算額を秘して、弘くそれ以下の工費を漁るのは、自ら豫算の無權威なる

こと、即ち杜撰粗漫のものたる事を暗默裡に語るものでなくば、工事實質の豫定以下なものを作るに外ならぬと存じます。何故ならば、其豫算に權威あるものなる以上、或る自然な影響を外にして何人が其工事を造るとも、先づ其豫算額に出合ふ筈であります。其場合に、甚しく豫算額を低下する請負者ありとすれば、普通な道理から見て、それは、豫算額が要求する實質以下のものである、と云ふより外はありませぬ。左すれば、それは理論上決して豫算の執行ではないのであります。

口何故と申して、豫算の執行といふ事は、勿論豫算額の行使であると同時に、其豫算額に藉りて要求し徵象されある處の、或工事の實質を獲得するに在ることでムいますから、豫算額以下、要求せる實質以下といふことは、決して豫算が行使されたものではないからであります。

——D——競爭入札の眞實な意義は是れ

―「金」ではない「人」を獲む爲―

口そう致しますると、從來行はれて居る處の、競爭入札といふ事は、大層其意味が變つて來ます。即ち豫算を一種の張ッたり屋式に解しますと、成るたけ低價にといふ考から、其低價の度合も、又實際ソウ廉く造つて呉る人も、當局者としては殆むど闇み雲でありますから、茲に、競爭入札なる手段に藉りて、其人を獲來つたのであります。要するに、工事請負者が中心でなくして、工費が競爭入札の中心でムいます。

口然るに、卑見のように、工事豫算を公示するとせば、恐らく、競落の差は、ほんに僅かなものでありましょう。併し、前に述べたように、工事豫算額は、何人が其工事を請負ふとも、大體豫算額に出合ふ筈なのでありますから、問題は茲に一轉して、何人に請負はしむるか、といふ意味が、其競爭入札の中心と成るのでムいます。

口併し、或人達は申すでせう、豫算を公示せば請負人が合同するような事はあるまいかと。問題は前述の卑見で決して居ります、即ち、合同しようが、しまいが、豫算の性質として、左したる伸縮

が出來得ないではありませぬか。豫算額は其額通り何處迄も執行すべき筈ならば、合同しようが、何んとしようが、それは問題ではないのであります。要は、適當な工事請負人其ものを得るに在ります。

口よく有る事ですが、煩鎖な手續や方法を竭して競爭入札に附したものが、豫算超過といふ奴で、再入札に附し、それでも尙ほ足らない場合、竟に豫算の執行が出來得ずして、云ひ換ゆれば、國民の福利的事業を實行し得ずして、更に豫算更正若くは追加豫算抔といふ面倒な、而も福利的事業の中止といふ羽目に陷る事が屢々あります。所詮は豫算秘密主義から生ずる缺陷であります。わたくしは、當局者が豫算の編成に充分なる權威と自信を有する限り、宜しく公示すべきものだと存じます。奈何なものでしょう？

× × × ×

(乙) 實際論

―E― 近い處から手を延ばして頂き度い

―まさか耀り下げ策ではあるまい―

口以上は、豫算なるものゝ性質を、國法上から見ても、財政學上から稽へても、斯うあるべき筈なもので、豫算執行者は、斯る合理な見地に立ち、衡正な考へを以て、豫算は何處迄も公示すべきもの、秘密にすべきものにあらざることを申上げたのでムいますが、豫算其ものとしては、是がほんとうな正道でムいまして、斯うならなくては、嘘でムいますけれども、現在の不合理な取扱ひを斯の正道に引き戻すといふ事は、其處に種々な關係即ち先入思想や慣行に因襲附けられまして、却々件の思想通りに往かない事は、わたくしと雖も何の異議も無い處でムいます。そうすれば、理想は理想、慣行は慣行で、其處に何等の改善も轉換も要しない、謂はゞ、在來通りに、一種の昏睡的態

度の儘で往くべきでありましようか。併し、それは、何としても、眞理に忠なる所以では厶いませぬ。

口されば、縦し、理想通りに往かなくとも、せめては、豫算其ものゝ眞實性に近からしむるだけな取扱ひを要しようと存じます。茲に於て、わたくしは、現在官公署の工事公入札に就て行はれつゝある處の、「ヨリ低價主義」を改め、即ち、一種のハッたり屋主義を一轉して、豫算以下の最低價必ずしも競落者に非ずと做て頂き度い。それよりも寧ろ、豫算額妥當主義に立ちて、競爭入札中此の豫算額に最も近きものを採る、といふ原則に據つて頂き度いのである。

口斯うなると、前申述べました通りに豫算其ものゝ、ほんとうな性質を發揮するに庶幾からしめ、他面には、自己に自己の豫算編成の權威を有することを裏書する譯になります。然らずして、『ヨリ低價主義』に立つて、實際に豫算額と非常な開きが下に在つても上に在つても、それは、確に、豫算の性質を誤つてゐる許でなく、自ら豫算其ものゝ權威なきを曝露するに外ならぬととなります。而も、若し其豫算は權威あるに拘はらず、競落價額との値開きに格段なものがあるとすれば、それは、確に何かの不祥事を生ずる動機を拵へてやるものだ、と解しても、決して酷視ではありますまい。そして、結局は、豫算の要求した實質なものを、獲得する事が出來ない羽目と成つて、所詮は豫算を執行したのでなくして、其豫算の部分を執行したに過ぎない、といふ理屈になりはせないでしようか。

口故に、從來の一番札主義を据てゝ、敢て二番札とも三番札とも謂はない、要は、豫算に最も近いものを採る事にするのが、權道に於けるほんとうな取扱ひであります。扨うすると、茲に、どうしても、矢張り豫算の公示といふ事が、開札と同時に其必要を生ずるのであります。何故ならば、縦令其採擇權が豫算執行者に在るにしても、果して豫算に最も近きものなるや否やは、入札者に公示せなければ、恐らく、『入札』てふ制度を設けた趣意即ち公正といふ事に、矛盾を生ずるではありま

せぬか。『公正』とは、片務的な意味なものではありませぬ。當事者凡ての上に妥當な觀念を與へてこそ、公正と謂ひ得るのでありますから、豫算執行當局者だけが、獨り、豫算額に近いものだとして、又は然らざるものとして、其標準たる豫算自體を何處迄も秘するのは、果して公正と謂ひ得ましようか。

□殊に、豫算超過の場合、再入札なる事が、果して豫算超過かどうか、若し當局者を信任せざる限りに於て、之を一種の羅ヶ下げ策と視られても、其公示せない限りは、恐らく誣謂なりとは斷じ得られまい、と想ひます。若も、ソウいふ間違つた事があるとしますれば、豫算額を出來得るだけ喰ひ延す事が國家財政に忠なる所以と思ふこそ、却つて、實は、それだけ國民の福祉的施設が低下するのでありますから、恰も、營養不良を睹して金積むで、而してお醫者に掛ると、其愚策たるに於て何の異りもないのでムいます。——おやツ！、腹膨れがまだ殘つてゐるのに、最早や書く頁がない、いや餘りに多うかつた、では云ひ竭きせぬ憾みを遺して、一先づ筆を擱きますが、以上に就て讀者各位は奈何思し召すでしよう？。（畢）

思ひを致すは井を掘るが如し
初めには潭水あるも
久ふして後に清者出で來る
（近思錄）

瀝青質屋根葺材料に就て

工學博士　細木松之介

原始的人類が屋根葺に使用したる材料は草、茅、小枝、篠等にして、稍進歩したるものは樹皮や板を使用し、更に進歩して瓦となりたるが、此等の材料は魚の鱗の狀態に互に相重ね幾分づゝ下方に延ばし行くものなるを以て、屋根に相當の傾斜を付けて水排けを良くせざれば雨水が逆流して雨漏りを來すものなり、而して此傾斜の角度を適當にする事は建築家の頭を要する事なると同時に、又費用を增加する事となる。

然るに近代に至りて建築界の進歩は、屋根葺材料にも大なる進歩を促し、從來の如く、鱗狀葺の不經濟なるものに代へて、屋根全部に亘て、接合せる一大板若くは膜狀のものを以し、尙一枚に接合せるものなるを以て、鱗狀葺の如くに傾斜を付くるの必要なきに至れり。而して此板若くは膜狀の物とは、即ち金屬の薄板を接合せるもの若くは布又はフエルトの如き物にピッチ又は其他の防水材料を施こしたるものなり。

斯の如く膜狀の屋根葺材料を使用する爲に、急勾配の傾斜屋根の必要なきに至りたるを以て、傾斜屋根を漸次減少して、其代りに經濟的なる平屋根が大いに增加し、歐米諸國に於ては、平屋根が標準構造となるに至りたり。

ピッチ、タール、アスファルト其他之に類似の材料は、單獨に若くは種々に調合し、廣く屋根葺材料として、使用せらるゝものにして、之を總稱して瀝青質屋根葺材料と稱すれ共、其用途の方面より之を大別して二とす、其一は接合せる大なる膜狀の物にして主として平屋根（幾分の勾配を有するに使用するもの）又其二は小形の物にして瓦や

板の如く鱗狀に葺くものとす。

瓦やセメント製タイル、スレート、亞鉛掛鐵板、等に關しては、從來の經驗に徵して、專門的報告を得ること富易なるを以て、此等屋根葺材料を使用し、若くは購入せんとする人は、其撰定に苦まずと雖も、アスファルト又はタールの如き、所謂瀝青質屋根葺材料に關しては、學術的研究未だ不充分なるを以て、之の等材料に關する專門的報告は甚だ乏しく、其品質の優劣を判斷し又は其使用法に就ての知識を得る事も困難なるを遺憾なりとす。其理由は、瀝青質物は頗る複雜なる炭化水素を主要成分とせる物體なるを以て、化學者と雖も、其成分及び性質を詳にするに苦しむ處のものなり。殊に屋根葺に使用せらるゝ、瀝青質天産物には、其種類四十以上ありて、其各自が皆互に多少共化學的並に物理的特徵を異にするのみならず、其用途の如何により、又は製造家の特徵として、此等多種類の物を互に混和するを以て、一層其複雜の度を增すものなり。

加之或る一種の原料を以て、或方法によりて、造られたる屋根葺材料が、他の原料を以て、又他の方法によりて造られたる屋根葺材料に比較して、其優劣如何を判斷すべき標準試驗法は、未だ之有らざるのみならず、從來唱道せられたる多くの試驗法は、設備の完全なる試驗場に於て、且又瀝青質物の成分性質及び用法に就き、充分なる知識を有する人の手によりて、試驗せらるゝに非ざれば何等得る處なきものなり。故に斯る試驗法は、普通の使用者又は購買者の爲には、殆んど其用を爲さゞるなり。事態斯の如くなるを以て、多くの製造家は各自勝手次第の名稱を附して、其製品の特長を誇大に吹聽し、敢て背德の責を蒙むる事を免れ來りたるを以て、其吹聽せる所と、實質との間には月鼈の差あるもの多しとす。

事態斯の如き有樣なるに拘らず、瀝青質屋根葺材料の製造業は、近代長足の發達を爲し、最近六七十年の間に於て、皆無の狀態より發達して、現今に在ても其使用せらるゝ面積は、總て他の屋根葺材料を合したるものよりも大なるに至れり。殊に米國に於て其發達著しく、同國に於て、斯業に投下

せる資本は四千萬乃至六千萬弗なりと云ふ。之れ瀝青質物が屋根葺材料として、優良なる事を證明するものなり。

今本篇に於て述べんとする所は、本材料に關する詳細なる記事と云ふこと能はずと雖も、多種の製品に就き、其孰れを採るべきやを決定する際に於て參考の一助ともならば、予の目的は大部分達したりと云ふべし。

元來建築物は記念建築物を除外して、其他のものに在ては雨露より庇護するを以て其最要眼目とするが故に、屋根は此大目的を達する爲の最大要素たるを失はざるなり。而して其他の部分は此主眼に伴ふ從たるべきものなり。

而して此眼目たる屋根葺に、瀝青質物を使用するものなれ共、其用途を細別すれば、之を三分するを得べし。

第一　瀝青質物を單獨に防水材料として使用すること。

(イ)、フェルトの如き物に吸收せしめて固形体として使用するか又は斯る薄片を互に接合せしむる爲に粘結材として使用すること。

(ロ)、フェルトの如き物を幾枚も重ねて其各葉の間に瀝青質物を狹み込み、尙フェルトに吸收飽和せしむる時は一枚のみの物よりは成績著しく勝るべし。

第二　フェルト若くは布片に吸收せしめて使用すること

(イ)、單獨に使用する時は薄き層をなすに止まれ共フェルト等と共に使用すれば稍厚層を爲し得べく從つて耐久性を增大すべし

(ロ)、布片に吸收せしめて用ゆれば、耐伸强を大ならしむるを以て、龜裂等をも防ぐに最も有効なるべし

第三　上塗り即ち仕上げとして使用すること

(イ)、雨露若くは人の爲に傷損せらるゝ部分に上塗して耐久性を大ならしむ

(ロ)、外觀を美にすること。

然りと雖も、屋根葺材料として、永久に絕對的防水性を保持せしむることは、頗る難事なりとす。之れ凡ての粘調質物は幾分の油、若くは油狀物を

含有する物にして、此油若くは油狀物は之を空氣に曝露すれば、常温に於ても徐々に揮發する性質あるは、恰も二百十二度に於て沸騰すべき水が、常温即ち六十度内外にて、著しく蒸發すると異なることなし。而して、揮發せる後殘留せる物は硬く成り、冷却して結晶狀に變ずると勘なからざるなり。

又夏期と冬期の温度の差によりて、膨脹收縮の結果、屋根の表面部の材料に、大なる緊張を生ずることも明白なる事實なりとす。本邦に於ても、台灣南部の市街と、北海道、樺太等の市街の温度は百五六十度より、零下二三十度に至る大差あるべし。而して屋根組構造の材料は、著しく膨脹收縮せざるものなるに拘らず、屋根の表面に在る瀝青質物は斯く大なる温度の差異より生ずる膨脹收縮によりて起る壓迫及び緊張を、主として負擔せざる可からざるなり。

此故に屋根葺材料として使用する瀝青質物を、夏時に於て熱せらるゝ最高温度より、數度以下の温度にて熔融若くは熔着すべきものたるを可とす。尙之と同時に、此熔融性が之を實地に使用したる事情の下に於ても、容易に揮發せざる油類の存在する爲に、基因して發現したる性質なるを要す。コールタールを蒸溜して得る油は頗る良質の物なりと雖ども、他の油は、熔融点に關しては同等の物を得べし、されど、其混和の点に於て不充分の所あるを以て、冬期寒冷のために受けたる損傷を温度の昇るに從ひて恢復して舊態に還らしむる事能はざるなり。

（つゞく）

◇◇ 請負人の注意すべき權利義務 （下ノ一）

終身賛助會員　有山福重郎
辯護士　瀧本貢　編

法は日常生活の規矩にして諸般の事業に從事する者一として法の必要を感ぜざる者はないのであります、之れ、即ち法治國民として、洵に當然の所以であります。然るに世人の多くは今尚舊套の陋見を有して生兵法は大怪我の基てふ域より脫せず、法律同題が起れば自家の利害休戚に關するものなるにも不拘之を專門家に托し、生殺與奪の權を與へて顧みざるが如きは私の最も不本意とする所であります。而して既に時代は職業の分科を要求しつゝあるが故に、法律問題も亦其專門家に委して可なるが如くでありますが、私は寧ろ其問題の惹起を未然に防ぐの意味に於て、自家の職業に就き分業的法律理解の必要を高唱せんとするのであります。

近世文化の進運に依り、都市計畫に伴ふ文化的生活を唱導する智識階級者多く、從て私の職業も又刻々繁劇を加へんとする此秋に方りまして、各其職業に就き法律的理解の有無は其便否利害の差、奈何許り大なるかを感ずる次第であります。

淺學菲才の私、烏滸ケ間敷くも思を茲に致しまして、舊友辯護士岡本貢君に囑し、先以て自己專業の請負契約論を草せしめたのであります。行文往々難解の點なきにあらざるも、其所論に至りては、獨斷を去り、學理に拘泥せず、專ら判例を主とし、一般是認せられたる學說を以て補ひたる等、周到なる研鑽は之を信じて謬りなしと思料致します。唯人事の繁劇なる百般の請負事業に就き、其解決の關鍵たるには量に於て乏しき感なき能はざるも、庶幾。本文を以て私等同志の伴侶ともならば、敢て私の幸ひのみにあらざるを思ふのであります。（有山誌）

請負に關する判例（その一）

一、仕事に瑕疵ありたる時は注文者は請負人に對して其瑕疵の修補を爲さしめ若くは之に代へて損害賠償の請求を爲すを得ることは民法第六百三拾四條に規定する所にして注文者が前者の請求を爲すときは請負人の爲めに相當の期間を與

ふ可きも後者の請求を爲すときは相當の猶豫を與ふることなく直ちに之が請求を爲すを得ることは同條の規定により明白なり（大審院判例）

二、政府の工事を請負ふ者に特別の資格を要することは諸法令の規定する所なるも其工事を請負ひたる者より更に下請負を爲したる者の資格を定めたる法令存せざるを以て或人は他の者と下請負を契約したる當時鐵道作業局に對し直接に鐵道工事の請負を爲す資格を有せざりしとするも其下請負に關する契約を當然無効なりと謂ふを得ず（大審院）

三、請負契約は所謂双務契約の一種なるを以て請負人は之が工事の完成及び引渡に付き期日の定めある場合に於ても注文者が已に辨濟期の到來したる自己の負擔に屬する報酬金支拂義務の履行を提供せざる以上は其工事の完成及び引渡の義務履行を拒絶するの權利を有するにより其期日に履行せざりしとて直ちに之を以つて請負人に不履行の責ありと云ふを得ず（東京控訴院）

四、請負契約の成立したる以上は爰に請負者が報酬を受くるの債務權發生し唯其行使の時期が仕事の完成後に在るに止まれば仕事の完成前なるの故を以つて其債權の成立不確定なりと謂ふを得ず而して苟も債權にして成立せる以上は其性質上又は法律上轉付を許さざる者に非ざるよりは其轉付命令は有効なりとす（大審院）

五、請負契約は民法第五百四拾壹條に依り當事者の一方が相手方の債務不履行に基き之を解除することを得るの外に尚ほ同法第六百四拾壹條に依り請負人が仕事を完成せざる間は注文者に於て何時にても解除を爲すことを得るものなりと雖も注文者が右第六百四拾壹條に定むる解除權を行使するに非ずして專ら第五百四拾壹條に依り請負人の債務不履行を理由として解徐の意思表示を爲したる場合に於て請負人に債務の不履行を責むべき事實なきときは解除の効を生ずることなく契約は依然として其効を有するものとす又其の既に無効に歸したる解除の意思表示を以て第六百四拾壹條に依る解除の効を生じたるものと爲すことを得ざるなり（大審院）

六、當事者間に賃金率に付て何等特約なかりし場合には各當事者は其當時に於ける其地方に存する一定の相場に依り支拂を爲す意思なりと解すべし通常一地方には大工、石工等の職工に付ては同業者に通ずる賃金の相場あるものとす故に之と異なる賃金を主張するものは之を立證するを要す（東京控訴院）

七、工事が倉庫新築其他の工事にして特別の事情なき限り石工の五日間の妨害に因りては其工事全體に五日以上遲延を來すものと認め難き場合に在りては期の如く比較的短時間の遲延は爾後二回に四ケ月間竣工期を延期されたる以上其間自ら回復せられ其以後の工事の竣成には毫も影響なきに至りたる者と認め得べし（東京控訴院）

八、建物建築の請負契約に於て當事者が特別の意思表示を爲さざる時は注文者の所有權取得の時期及び其取得は原始的なるや承繼的なるやは一箇の問題たるべしと雖も請負人が請負報酬金全部の支拂を受けて建物を引渡したる後に於て其所有權を移轉すべき契約なる時は其請負報酬金全部の支拂及び建物の引渡ある迄は建物の所有權は請負人に於て之を留保し支拂及び引渡の後注文者に所有權を移轉すべき意思表示を爲して初めて建物の所有權が注文者に移轉するものとす（東控訴院）

九、一般の事例に徴すれば少許の變更は請負人に於て異議なく之を施行したる場合に於ては最初定めたる請負金の中にて之を承諾したるものと看做さるべきものとす（安濃津地方裁判所）

十、履行の不能が注文者の責に歸すべき事由に原因したりとせば請負人は、民法第五百三拾六條第二項の規定により自己の債務を免かれたるに因りて得たる利益を注文者に償還することを要するも請負の報酬を受くる權利は之を失はざるべく又若し其履行の不能が請負人の責に歸すべき事由に原因したりとせば注文者は損害の賠償を請求することを得るも請負人の既に爲したる工事の部分に對し報酬の幾分に相當する金額の支拂を免るゝことを得ざるべく又若し請負人の既に爲したる工事に瑕疵ありとせば注文者は其

瑕疵に付き損害賠償を請求し又民法第六百三拾四條第二項に依り同時履行の抗辨を爲すことを得るも其抗辯に因らずして漫然報酬の支拂を拒むことを得ざるべし既に注文者が請負人に請負はしめたる工事を既に他人をして完成せしめて目的物を占有し尚ほ請負人の履行すべきもの存せざる以上は單に請負人が其工事の一部を成して全部完成せざりし一事は未だ以て其報酬請求權なきことの理由と爲すに足らず（大審院）

一一、土地の工作物の請負人は民法第六百三拾八條第一項の規定に依り其工作物の瑕疵に付ては引渡後五年間擔保の責に任ぜざる可からず（東京地方裁判所）

一二、建物の請負を爲したる請負人が請負契約に因り自己の材料を以つて注文者の爲めに建築する場合に於ては仕事の結果其材料を土地に附着せしめたるや否や其所有權の當然注文者に移轉するものにあらずして請負人より注文者に引渡を爲すことに因りて所有權を移轉すべきものと解釋するを相當とす何となれば民法第六百參拾參條には引渡と同時にとあり又第六百參拾七條第一項には引渡したるときとあるを以てなり、（東京控訴院民事部）

一三、酒保品輸送中敵襲に遇ひ該品を掠奪せられたるとき假令請負契約書に之に付き特別の定めを爲し置かざりときと雖も酒保請負人は師團に對して損害賠償を求むることを得（東地民）

一四、請負人が自己の材料を以て注文者の土地に建物を築造した場合に於ては當事者間に別段の意思表示なき限りは其建物の所有權は材料を土地に附着せしむるに從ひ當然注文者の取得に歸するものに非ずして請負人が建物を注文者に引渡したる時に於て初て注文者に移轉するものとす是れ本院判例（明治三拾七年（オ）第二八六號同年六月二拾二日判決）の示す所なり蓋此場合に於ては建物は全然請負人の供給したる材料及勞力に因りて成りたるものに係り且請負契約の性質上特約なき限りは請負人は其建物を注文者に引渡すに非ざれば債務完了せず之を引渡すに因りて初めて債務完了し注文者に對する報酬支

拂の請求權發生すべく尙ほ建物を引渡すまでは之に關する危險は請負人の負擔に屬し引渡に因りて初めて注文者の負擔に歸すべき關係等に鑑み又建物は土地に附著するも獨立したる別箇の不動産を成し其土地の從として附合することを認めざる我法制に照して考ふれば本院判例の趣旨は之を是認するを相當とし未だ之を變更すべき理由あるを見ず（大審民）

一五、横須賀海軍工廠より軍艦備付用のセルロイド製電話器傳話口の納入を請負ひ之を他に下請負を爲さしめたるに下請負人が見本と異りたる物を製作したる爲め納入不合格となりたる時は請負人は下請負人に對して曩に交付したる內金の返還及び納入に依り得へかりし額に相當する損害の賠償を請求することを得るものとす（東控民）

一六、請負人が自己の材料を以つて注文者の爲に建物を建築すべき請負契約を爲したる場合に於ては仕事の結果其材料を土地に附着せしむるや否や、民法第二百四拾二條に所謂附合の原則に依り當然其所有權が注文者に移轉するに非ずして請負人より注文者に對し建物を引渡すに因りて初めて移轉するものなることは民法第六百三拾七條第一項の規定に依り推知することを得べし是れ本院從來の判例の認むる所なり（明法三拾七年(ォ)第二八六號同年六月二拾二日言渡の判決參照（大審民）

一七、契約書に所謂實費並に鐵道布設資金消却費なる文字を使用しありと雖も石炭運搬に對し一定の割合に依る金錢の支拂を爲すべきこと定めたるもの即ち石炭の運搬並に鐵道利用に對する報酬を定めたるものなるときは報酬を受領する者に於て報酬を與ふる者に對し仕事に要したる實費等の淸算を爲すべき義務を負擔すべきものに非ず（東地民）

□　□　□



將來の『都市』

『市加古市』(16)

ウオルター・デイ・ムウディイ著
Z Y 生譯

第十二章　市加古市の人物と事物

（つゞき）

（四）

市の西、南、北の側に幾つもの公園があつて、これを遊歩街が聯結してゐる。その遊歩街の延長四十哩に及んでゐる。ルーブ區、その名とその性質に於て、恐らく倫敦の『小ブリテン』を除いて地球面上この區程有名なる部分は他にないが、その劇曲的なる駭目に價する。商業、財政、交通の充血せる、沸騰のこの大釜は、唯全市の八百分の一の部分を占むるのみである。この小地區その容積、唯良き田舎の都市の大さに過ぬ——の中に、東西南北に亘つて、十九箇の街路がある。中十五箇の市街は電車線路を有し、電車は凡ての交叉點に於て各方面に向つてゐる。そして日々一萬の電

車、十五萬二千の他の種類の交通機關が動き、卅二萬三千人がこゝに働き、百十萬の人がこゝに往來してゐる。河は橋梁をかけてあるが、この中心區域のみで十二の橋がある。この橋が市街交通組織上の一大脅威であつて、その電車自動車その他のものゝ全體の運動の上に、阻害となり充血となつてゐる。(現在湖上を利用する商業の六十八パーセントは、カルウメットに於ける湖港に移りつゝある)かういふ具合に始め市加古川から直接貨物を陸に積み上げ積み卸してゐたが、將來全然湖口のカルメット碇泊所によつてこれがなさるゝに至らば、市加古川には從來の吃水深い汽船の代りに艀船が用ひられ、隨つて開閉橋は不必要となる。その代りこれ迄の如き市の市街組織の充血的動脈を開通せしめたことを記念する美しい一大停車場が築造さるゝに至るであらう。

(五)

市加古市の小賣商店區は、世界に有名である。ステイト街にある非常に發達した商品勸工場が示してゐる程の人目を歡ばせる飾窓の如きは、全米國のどの都市を探しても發見することは出來ぬ。この限られた區域にある飾窓は、直線にして一萬八百卅四呎に達し、窓硝子の平方哩十七萬三千三百四十四哩あつて、眞のパノラマを成してゐる。そして蠱惑的で誘引的で、その變化も人の要求の樣々なる如く多樣である。飾窓に多大の注意を拂へる事と、其研究に於ても、巧みなる實際的の應用に於ても、この區域に勝るもの世界の何處にもない。故に米國の各大都市から、又海を超えて英國や大陸から、飾窓の裝飾家は、この驚く可き裝飾を研究するといふだけの目的でわざ〳〵市加古市を訪ふて來る。市加古市の大小賣商の一つでは一開店毎に裝飾の結構に、六萬弗から七萬五千弗位を費し、飾窓丈けで一萬二千弗から一萬五千弗を費してゐることは人に知られてゐることである。

商店の飾窓は一年中日々商品の飾りつけの多樣なる、範圍の廣さ、素晴らしいものがある。それが最も不活潑の時代でも左樣であるが、殊に

春期や一開店して間もない頃は寧ろ驚く可きものがある。商品の富豊さ、藝術的の修飾、藝術的手並と裝飾的構成の高級なる、唯それがすばらしいといふ丈けでない、魔力的であり開發的である。

ゼエ●クラレンス●ボデイン、彼は我國の一流の商店裝飾家であつて、米國の各大都市の飾窓裝飾術と離る可らざる關係を有して居る人であるが、彼は次の如く述べてゐる。

『適當な有効なる商品の展覽は商店にとりて、最大の財産の中の著しいものゝ一である。これ商賣の大なる根本原理の一である。この展覽の敎育的價値も未だ過重するといふ迄になつてゐない』

『近世の飾窓の方法によつて、稀にしか美術館を訪ふことしか出來ぬ幾百萬の民衆に、商業藝術展覽に接するの利便を與へる。之れによつて彼等は一の價値ある藝術を見、又一の目的を有する藝術を見ることが出來る。夫等の展覽によつて、各自が吸收する藝術の例は、高級美術に對する彼の態度を安全に建設する健全なる基礎を提供する』

「此の藝術は我等の時代、我等の文明に屬するものである。商人はこんなものに幾千弗を費して惜しとは思つてゐない。寧ろ最も成功ある投資をしつゝあると思つてゐる。この驚く可き飾窓なくしては、デバートメント・ストアも、巨大なる倉庫と撰ばぬものになつてしまふ』

『デバートメント●ストアは、近世商業式に立脚せるスライト街の商人の間より發し、而して夫等の商店の飾窓は、商品を適當に展覽せしむべき、補佐物としての驚く可き道具立てと背景の源泉となつてゐる。この商業の部面に、確信をもつて藝術を應用したのは、市俄古市が開拓者であり指導者である。普通デバートメント●ストアは、飾窓の廣さ裝飾道具その維持に、一年間六萬弗を費してゐる』

この區域にある商店が暖かく季節にかなひ便利なること商品の豐富なること、世界類がない。又店員が禮儀正しく注意のきくこと彼等は學校にてその訓練を十分に受けてゐる。店を愉快に又利益多からしめてゐる。

（六）

敎養の中心としての市加古市に就ては、別に章を設けて論ず可き性質のものであるが、併し物質上有形上の市加古市を終る前に、尙ほ街路、遊歩街、公園、郊外に轉じて論じよう。それ等の魅力と美とは、他の都市にも比較す可きものがない。或方面にては、他の都市の之れ等に優つてゐる。大なる內海を緣とる（荒れ日和には海の水烟が路上に突進して、市の中心に走る道を塞す）長さ四十哩の驅走道路を、いづれの他の都市がもつてゐるか。ミシガン列樹道路、レーキ●ショア●ドライブシエリダン道路の如きは即ち之れであつて、市の中心から南九哩にあるサウス●ショア・カウンツリー●クラブからのびて、北は卅哩●レーキ●フォーレストとグレート●レエーキスツレエニング●ステエションに達せる、遊歩道路の組織と混じてゐる若しも、人あり、レエーキ●フロントのセブンチーフオス街にあるキウス●ショア●カウンツリークラブより出發して行くならば寔に驚嘆す可き公園や交叉せる遊歩道路を越え、而も逆戻をせず市の接界線を越え去ることもなくして、四十四哩の圓周道路を小旅行し得る。この數時間を要する美しき旅行は、事實に於て之れでもその旅行者をして市の南部境界線に九哩だけ近く行かしめたことになつてゐる、西は三哩、北は六哩である。

右は單に遊歩道路や諸々の公園のことであつてこの圓周路から派出したり又は並行したりしてゐる美しき街路の哩數は含んでゐないのである。又市の境界線に接してゐる魅する如き村々をもて點を打ち、西部遙かに起伏せる牧場に達し、北方は幾里か、湖の水際に迄のびたる、光輝ある幾哩かの道路も算入してはないのである。

我等は今、米國に於ても最も興味あり引力あるもの丶一つであるサウス●ショア●カウンツリークラブ（このカウンツリー●クラブは市の中心と市の境界線との中間に位し、何れへも九哩を要する）を起點として、遊歩街の觀光に出かけやう。安樂と休養とのあるかゝるエデンの園の如きクラブは市の喧騒から八釜しき工業區から遠く離れたる位

置にある。

（七）

このクラブの入口を離るれば、道は、愉快なる無數の船が不斷に碇泊してゐる、クラブのヨットの港を縁どりて北に進む。直ちにジナクソン公園の南方の境界線に入る。公園の豊富なる土地をすぐれば、曾て世界的聲名を發揮した世界コロムビアン大博覽會―今は歴史的となれる―の跡の濶大の地に出る。此公園は市加古市の驚嘆す可き、諸種の公園中の最大なるもので、その中五百四十三エークルは、何人も自由に使用し得るゴルフ競技場が設けてある。その大きなゴルフ競技場の右に方つて、碇泊所があり、そこには、クリストファ●コロムバスの米國探險のカラベルス（往時西班牙人葡萄牙人等の用ひし帆船）二隻が（模型）横つてゐる。これは、過る世界大博覽會の、興味ある紀念的な遺物である。大ゴルフ競技場を越えた向ふに、美はしき『共和國』の立像が、恰もコロムブスと共に西に航した船夫が、物を探るその時の目付を思はしむる目付で湖水に面して立つてゐる。この紀念大立像の高さは四十呎、雙手は高く空に擧げてゐる。これは一切の人類に對し、多望なる膨脹と安全との、永遠の時代の黎明を宣言せる、舊、新兩世界の沈默せる壯嚴な記號である。

北方に進めばミシガン湖が、遠く濶大なる景觀を示してゐる。水面は遙に大洋に似て、人目を喜ばす。湖の縁を圓く巡れば、獨逸政府が市加古市に寄贈せる、世界博覽會の獨逸の建物が遺つてゐるを見る。すぐそれに接して市加古市の有名なる水浴濱の一がある。その附近に小舟を保護するための繪の如き棧橋がある。荒れの日には山の如き波浪が突進し來り、衝り碎け泡だつ壯大の景を展開する。

小ゴルフ場を越え湖濱に降りて行けば、其處に大博物館の、人の心を鼓吹する如き姿が現れる。古代のアゼンスの夢に似て、世界の最も價値ある博物館の一の中心が、光輝ある姿に於て立つてゐるこの博物館に對し、現代と古代とを混ずるかの

如く、公園の外に導き行く長い遊歩街があり、その縁に公園の環境を背景に、王宮の如き邸宅が連らなつてゐる。博物館から西方へ、ミッドウェイプレイザンスが腕を延ばしてゐる。世界博覽會市街であつて、世界的には『あらゆる國民の街路』として知られてゐる。此の奇妙なる大往還は、恐らく、他の多くのいづれのものよりも優つて、(一層よく世界博覽會を辯護してゐる。この廣い樹蔭街は長さ一哩の間、左側に家族的のホテルや、庭園が並んでゐる。右側は高く聳え廣く散在せる大なる市加古大學の建物がある。ミッドウェイと大學の建物との中間に、凹める大遊戲場が擴がり、その周圍は佛蘭西の田舍道の如く、停々たる大樹が並んでゐる。このミッドウェイがヂャクソン公園とワシントン公園とを聯接せしめてゐる。

(八)

ワシントン公園は—ヂャクソン公園の三分の一ではあるが、三百七十一エークルの非常に大きな遊戲場を備へてゐる—風景の組立方に於て市のいづれの公園よりも秀でゝゐる。富豪の大邸宅の庭園の面目があり、組立てに於て趣味深く青綠に於て富豊に落着きがある。ゴルフを除いては凡ゆる類の競技道具が悉く備つてゐる。巨大なる暖閣があつて、壯大なる花の展覽をなし、植物敎育上罕に觀る利便がある。

ワシントン公園を去り、ガーフ井ルド遊歩街を通りて行く處の西部諸公園に至る八哩の輕歩は、變化多く興味深きものである。湖水の遙か西部に在る大都市庭園の第一のものは、ダウグラス公園である。この遊歩街を超ねて行けば途中ガーフ井ルドウエスターン●サーチー●ファースト、キャリフォルニヤツエンチー●フォーズ、マーシャルの六遊歩街がある。この矩形の方向に沿ふて、市加古市の多くの興味ある姿に遇ふ事が出來る。小公園、立派なる邸宅、華麗なるアパートメント●ビ井ルディング、小商店、公の建物、敎會、感化院、病院、鐵道商舖、巨大なる工場の設定地、專門學校、川、ワシントン、ダウグラス兩公園間を聯結する

道に沿ふて横たわる運河等がある。

この方向に沿ふて眞直ぐに、世界中にて最も美しく、設備完全なる兒童の爲の遊戲場がある、シャルマン・マッキンレー・ガッグの三公園である。これを兩斷するものは聯合家蓄置場である。世界最大のもので、中央製造業區域に非常に發達したものである。この周圍に多くの國語と多樣の人種が住むである。

右の遊歩街の驚く可き連鎖は、平凡なる大道と化せざらんがために、單調を破る多くの變化が備へられてある。廣い立派に鋪床せられたる大道に沿ふと、樹木、草花、灌木、泉水、立像等が配列して、美と引着力を放つてゐる。大抵の市の遊歩街なるものは、富める者の大道であるが、市加古市にては貧富ともにその美に與ることが出來る。

ダウグラス公園は面積、百八十二エークルを占む。西部に住する市民は、湖に遠きため、その設備の恩澤に浴することが出來ぬので、それを補ふため多くの遊戲の道具と場所とが備り、群集を喜ばせ爽快にする設備、心身恢復の爲の備が富豐である。水泳池、屋内水泳練習場、灌水浴、その他多くの戸外遊戲とともに、民衆の幸福と健康との源泉となつてゐる。

この愉快と自然の美の集合所の次に—ダウグラス公園を去る二哩—ガーフヰルド公園がある。大さは前者と同一である。遊歩街に沿ふ西部の三大公園中最も西端に位する公園である。ダウグラス公園とインデペンデント遊歩街を通つて行くことが出來る。

ガアフヰルド公園の中心から、眞直にルーブに達するデャクソン、ワシントンの兩遊歩街がある市の活動中心からは五哩距つてゐる。

ダウグラス公園を超えて行けば、途中に無數の敎會や猶太敎會堂がある。此區域は猶太人居住地なのである。盲人の爲の家庭、兒童のための家庭、市中の最も立派なハイ・スクールの一もある。かくして次には西部での最上の邸宅區域に達するのである。

市加古市の大公園は、それ〳〵特色をもつて居て、各々が何等からの秀れた點をもつてゐる。ガ

ーフヰルドは圖をもつて著る。米國に集蒐されてある珍稀な蘭種は、こゝのガーフヰルド暖室にある。暖室は米國最大のもので、六萬八千平方呎の面積である。最高温度室には、色彩濃厚な熱帶植物が、絢爛の美を誇つてゐる。羊齒植物室は、自然の風趣に合せて建てられ、その中には大木の羊齒、羊齒種中の最少のものもある。

戸外花園も他の公園の如くこゝにある。美はしく變化多く、景觀と建築物の美とは、いづれの他の大陸にも優つてゐる。ガーフヰルド公園はゴルフ場、冬のスケエチング、その他多種なる夏期の遊戲に適應するやうに設備がしてある。

市加古市の諸公園に發見する其特色は、兒童等の爲の遊戲場と、水泳池と、公設圖書館の分室である、優秀なライブラーと讀書室とである。

（九）

市の諸公園中の最も美はしきものゝ一つ、自然美のエデン、西部にある姉妹公園中でやゝ大きいものはハムボルト公園であつて、ダウグラスの眞直ぐ北南に當り、フランクリン、サクラメントの兩遊歩街を通り達し得る。此公園は一種閑靜なる空氣が漂つてゐるが、そは、グラウンド、往還、驅走場等を組立てた設計家の全腕に負ふものである。全體が配列に完全であつて、個人所有の大庭園に似て、自然は凡ての生物の上に好意をもつて笑んでゐる。こゝの薔薇園は有名なもので、遊戲場は完全してゐる。北の入口にコスユウスッコーの騎馬紀念像があり、祖國の忠誠なる人々の捧ぐる花環の絶えたことがない。

ハムボルト公園から湖に歸り、そしてこゝからリンコルン公園へ至る六哩は、北部に於ける電光形の道路の小旅行である。そしてこれは南部に於てワシントン公園とダウグラス公園を聯結する遊歩街路と殆ど相並行してゐると言つていゝ。その第一の進路であるハムボルト遊歩街は、長さ一哩の四分の三、幅は四百呎である。この幅、廣き平地面は、長さは一哩にも達せぬが、市の最も立派なる遊歩街の一である。次に半哩程廣いパーアー

スクウエヤーを通りて西方へ漫歩する。かうして更に半哩程ケッドヂイ遊歩街を（ローガン・スクエヤーに迄急に折れてゐる）北方へ進み、尚ほ今一の道を一哩半、デイバーゼイ・パークウエイにさですゝむ、こゝから東に眞直ぐリンコルン公園に迄三哩の道が走つてゐる。此公園は世界の公園中にて最も群集夥しく、市加古市の最も魅力ある外出地であると言はれてゐる。ミシガン湖の岸に沿ひリボンの如く四哩延び廣がつて理想的の位置を占めてゐる。他の公園は嘆賞さるゝも、リンコルン公園は舊き信實の友人の如く愛せられゐる。公園は人間に似てゐる。他の公園と友になるは困難であるが、併し諸君はリンコルン公園とは直に親しくなり、眤々睦み得るてふ經驗をさるゝに相違ない。凡ての隅、凡ての罅隙も舊知の屋敷の如く諸君を招くを覺ゆる。あらゆるところに引着力が潜み漂つてゐる。リンコルン公園の入口にて、迂回道路は南方に轉じてゐるが、シエリダン道路はミルウォーキー迄湖にそひ北方へ廻びてゐて、立派な北岸の郊外を通過し、市加古市の第一流の住宅區域を通つてゐる。公園に入れば三つの驅走道路がある。西部のそれは公園の端をめぐり、立派なる邸宅やアパートメント・ビルディングに面してゐる。中間のものは、眞中を、その他のものは湖の緣にそふて走つてゐる。公園は動物園をもつて有名であり、園内には千八百疋の動物がゐる。その大なる養鳥房、種類夥しき無數の鳥、老ひたる者にも若きものにも興趣が盡きぬものがある。古風の花壇には六百種の草花あり、天然の植物盡しの觀あり、其暖室は年々菊花展覽をもて有名である。新に開いた部分に五十七エーカーのヨットの港がある。これに隣して廣いゴルフ場がある。埠頭の南方に一哩の潟があつて競爭に理想的の場所である。又無數のキャノエやランチの防泊所となつてゐる。又この公園には廿五萬巻の書物を藏する科學院があり、誇るに足るべきものである。四百廿エーカーの面積には、立派な立像が數多くあり、その中に最も著しきはセイント・ガウデンスのリンコルンの立像である。この大工匠の最も美しき作にして、同時にこの大解放家の曾て造ら

れた最も美しき立像であると言はれる。

市加古市の發展に於て、かくも階調的に混じたる多様の國民性はこの美しき快樂の地に於ける藝術的紀念として、彼等の最大の天才等の音に聞く銅像を、こゝに寄與してゐる。ウヰリアムオルドウェイ、バルドリッヂは『一時代に非ず、凡ゆる時代に生くる』シエスクピアの立像に於て光榮ある英國を寄贈し、デェイネスは、幼年時代の民俗的傳說の大家、ハンス●クリスチヤン●アンデルゼンを寄與した。獨逸はゲーテ●シラー●ベェトウベンを寄贈した。ルビッソーの作であるグラント將軍は、合衆國に於ける最も立派なる騎馬像であると言はれてゐる。ジョン●ボイルの『警報』、ヘンリーダラームの『平和の記號』は彫刻藝術の最も秀れた標本と言はれてゐる。

ノース●アヴェニユに於けるリンコルン公園から南方へ進み、ワシントン公園に歸る、その距里は七哩である。其第一哩の間は『黃金濱』として知られて居る湖岸驅走道路である。富豪の王宮の如き邸宅がごつしりと並んでゐるが故にこの名がある。其向ひ側は並樹の美しき小道、一哩を距てたる市加古河の河口の方面へ、優美なる曲線を描いて坦々とのびる、リンコルン公園の埠頭の南の部分に當つてゐる。この灣曲の頂から、壯大な北岸の光景が現れる。空と湖との一掃したやうな廣濶なまがりくねりが眼を喜ばす。この灣曲に此の場所は第一流の家族的のホテルや、アパートメント●ビキルディングの設けられある廣大なる位置である。

公園とシカゴ河との中間に、第四長老教會があり、その建物は米國にて最も立派なるゴシック建築である。その次の南方へ向ふ第二哩は、新に建造せられたるミシガン列樹街であつて、これが、完成の曉は確に比類なき漫步的、店舖の大通とならう。次は有名なループ（市の業務中心地）に達する。通路はミシガン列樹路に沿うてゐる。巨大なる事務所、ホテル●クラブ●劇場が左手に聳え、右手はミシガン湖、ヨット繫泊所である。中間に二百五エークルの面積を占むる未だ完全に發展せぬグラント公園がある。美術館やローガン記念碑

はこの中にある。

ミシガン列樹街の背後には、ループ中に行き亘れる交通機關が、喧囂な響を立て狂奔してゐる。其附近は、大きな小賣商店區域、其背後はホテルと經濟機關區域、それから問屋區域、最後に河畔道終點に入る。グラント公園の南境湖面の展る處壯麗な博物館が廣い湖面に對して立つてゐる。グラント公園は出來上りつゝある公園である。かくして市の中心から更にミシガン列樹街を二哩進み卅三街に達す。こゝでワシントン公園に行かんためには（二哩の彼方）三つの道を選み得る。見物はこゝで終らう。

都市兒童にとりて最も切實の問題は遊び場所である。併し市加古市には斯の問題がない。何となれば市は百四十箇の兒童遊戲場を有てゐるから。市加古市民は遊ぶてふこと（運動も含む）に對し強い渴望をもつてゐる。そして健康なる身體は健全な精神を宿すてふ理論を實際に證明してゐる。公園の設備遊戲場の設備はこれを供給する。死亡率の低きはその事實なるを語つてゐる。公園にある圖書館、博物館又大なる價値あり、研究者を益する多大である。

（十）

市加古市の所有する公園の狀態、大體この如くなるも、市民にとりてこれで十分であるとは言へぬ。一九一八年に於ける公園全面積は四千六百エーカーであつて、專門家の調査の結果は市民の現在の人口には不足であると言つて居る。故に市は公園とすべき土地を得るために、フロント湖の沿岸幾哩かの面積を開墾し、新しき濱、公園、遊戲場を走る計畫を樹てゝゐる。全時に郊外公園の廣い鎖を發展せしめんとしてゐる。湖からの三方面にある市に密接し、市の周圍の森林を保存して、最後に二萬一千エーカーの土地（中一萬二千エーカは既に買收）を買ふ計畫もある。フロント湖北郊から、遙か南方のヂャクソン公園に至る迄の廿哩は、殆ど悉く島としての遊苑、濱に發展せしめることとなつてゐる。この中には恰好の遊戲場

と驅走道路二千エーカーも含んでゐる。

市加古市は今や創造の過程中にあるのである。我は大膽に言ひ且つ豫言をする、五十年後には、市は全世界に於て最も美しき人の慕ひ寄る市となるであらうことを。

現在の市加古市は、鐵道によつて近づく時にこの光景は嫌ふ可きものがある。不幸にもとの線路に沿ふ邊にても、旅客は工場の立ち並ぶを見、幾哩も汚い職工の家屋や、捨ておかるる廣場や、やつと發達しかけてゐる半成品の場所を見ざるを得ぬ。だがこの鐵道での人口の印象や、タキシーで街路を燥急に見物し終りて、市をはかつてはならぬ。多くの美の引力ある場所—皷吹し印象し、友情を示す—を知らんと欲するならば、市内に滯留し隱れたる處、社會、市の形態を洞視せねばならぬ。かくせば初めて現在の市が驚く可く磁力ある潛在性を知り、その未來の或偉大と美とを知るに至らう。

市加古市の成長と發展とは、米國諸都市中にてもすさまじいものである。以下の事實によつて、それが想像されやう。一八二八年には、現在のループ區域は牡牛の牧場であつた。それから九十年後此の牧場は一六三箇の建物が出來た。一八三四年村制を敷いた翌年、課稅は四八弗九〇七セントであつた。一九一七年、八三年後には全歲入は八〇、二三一、五四〇、八二弗となつた。一九一七年には廿時間は一箇の橋を六千臺の自動車が通過し、又ループには十三萬八千箇の凡ゆる類の車が這入つた。一八三七年市加古市が一箇の市となつた時人口凡そ四千人。一九一七年には三百萬人になつてゐる。

一八七一年の怖ろしき大火は、殆むど卅萬人が被害民となりし。近代に於ける大火災である。三百半平方哩、家屋一萬七千四百五戶が燒けた。總損失一億九千六百萬弗、家を失へる者十萬人であつた。だが三年後には火災の痕跡が殆ど無くなつてゐた。新都市の事業、有名なる市加古精神は、季節が寒冷に向ふ前に働き、その恢復力は信ず可らざる程に急速であつた。かくして新市街はヨリ強くヨリ大にヨリ富めるものであつた。一八九二年

に於ける世界コロムビヤ大博覽會は（亞米利加發見四百年紀念祭）市加古市にとつて新時代の黎明を開いた。總面積六六八エーカー、建物には一八八エーカーを費し、開會期六ケ月間、入場者二千七百五十三萬九千五百廿一人であつた。あらゆる企を含有せる驚く可き計畫であつて、世界を驚かせ、特色ある藝術的敎育的の勝利を獲たものであつた。斯の博覽會を計畫し遂行した主なる建築家は、ダニエル・エイチ・バールンハムであるが、彼が即ち市加古市の都市計畫を樹てた人である。博覽會の指導者はチヤールス・エイチ・ウォーカーであるが、此人は今市加古都市計畫委員會の議長である。かくの如き都市からして、十年後には全市に影響する偉大なる永遠の理想が生れてあると考ふるは不思議でない。

き に ふ け ふ

——奈良の夜 と大阪の朝の——

寢よと吹く營所のラッパかなしくも
奈良の月夜を鳴り渡りつゝ
……
兵營の槻樹の梢ほの白う
さ霧のなかを鴉むれ飛ぶ

現象の大大阪都市（乙）

玄黄子

詰込み主義な住居現像

住居は、我等の生活に於ける凡ての策源地であり、凡ゆる關係の發祥場所であり、而して、我等人格の本據である。故に、居住には、單に、實用主義にのみ於て足りれば可い、といふ譯には往かない。其處には功利許りでなく、形而上的種々な條件をも要すると、例へば、趣味性の充足、休養の好適、其他種々にある。是と同時に居住といふことには、之に託する我等の生活自體が、本來として、統一性と常恒性を有つてゐる結果として、居住其ものにも統一性と常恒性がなくてはならない。然らざれば、漂泊の生活であり、序次なき生息である。然るに我大大阪都市に於ける下級者中、職工の住居に就て、其實狀を見れば、其大數の上より、何處までも功利的實用主義のみに立ちて、居住の條件たる處の趣味、保健、利便抔といふやうな事は、殆んど全然顧みられてゐないことを發見する。先づ、是を、大阪市當局者が、市内及接續郡部に於ける職工住宅の實狀を調査したる結果を藉り來つて、保健關係の上から觀察せむか、室數の關係に於て、平均最少二室、多くとも三室を出でずして、之に三人乃至九人の居住者を收容してゐる。勿論是だけでは、其居住の保健價値を秤定し得る譯でないが、更に其平均一人當りの疊數に就て觀ると、一人二疊五歩といふ面積となる。而して、其床上の丈さ平均七尺五寸であつて、其結果、彼等居住者は平均僅に三百卅九立方呎餘の氣領を占めてゐるに過ぎない。之を科學的見地からすると、保健上甚だ懸念すべき狀態に在るものと謂つて可い。即ち、居住者の健康を維持するだけに於て、一時間

少くとも三千立方呎の換氣を要することになつてゐるが、近來一層進んだ研究に據れば、其場所と季節と人と時とによつて異るも、之を東京市に於ける標準に觀ると、冬季（煖房使用時期）に於ては、成人一人一時間最少二百八十八立方呎（一月午前六時）より、最大九百七十七立方呎（四月午彼四時）を要する。而して、其他の季節（煖房不用時期）には、温暖期と暑熱期と、夜間と晝間とによつて變化するが、之を概觀せば、最少二千五百七十立方呎乃至九千四百四十立方呎を要する。——即ち要するのである、好適に生むが爲には、どうしても是だけを要するのである。然るに、斯くの如く平均四百立方呎にも足らざる氣候を有してゐる處の、我大大阪都市の職工達、既に生活上著しき缺陷を有してゐる譯である。玄黄子は、斯る居住狀態から發生する處の、諸種の現象が奈何なるものであるか、といふ事を未だ詳にしてゐないが、深く考へると、其影響は連續的に因果的に竟には、我大大阪都市の產業から、我邦の經濟能力に迄波及しはせまいかと想像し得られる。近來大阪府衛生課の發表に係る處の、『大阪府各市町村死亡率』に據ると、大阪市は對人口一千に廿二人七七四、西成、東成二郡の平均に於て、二十七人六五四といふ率になつてゐるが、是は、恰當、都市衛生の施設甚だ粗慢なりし十九世紀の末葉に於ける倫敦市民對人口一千の死亡率、二十人九、市俄古市の二十一人五、巴里の二十四人四、伯林の二十六人五に比して、尙ほ其れを凌駕してゐる。而して、今日、都市衛生就中職工等の勞働者住宅に向つて、科學的な施設が實行され普及されつゝある倫敦其他の現狀に於て、既に、倫敦、市俄古の各十四人以下、伯林の十五人以下に、死亡率の低下したる事實に較べて、件の我大大阪都市民の死亡率の高き、實に驚くべきものあると同時に、軈ては前敘職工住宅の現狀も、斯る關係を Control するものであることは、疑ひもない事である。大大阪都市は、所謂大阪市なる區域に於てすら、現在二萬戸許りの住宅の不足を告げてゐるとのことである、斯の不足は、まさか、無宿者の增加といふ極端なる事象を產みもせまいが、其自然の成り行き

は、即ち、所謂群居生活又は過群生活を一層膨脹せしむる結果と成り、件の氣領問題即ち保健上の主要問題が一段と險惡を示すこととなるであらう。又、是と同時に、現在の大大阪都市は、斯くの如く住宅の不足に惱むでゐるが、他面には、現在其の下級居住を改善すべき大問題を擁してゐるのである。兩者とも輕重なき樞要な案件であるが故に都市計畫に附隨するの問題視するよりも、わたくしは、それ〳〵獨立せる解決を俟つ譯ではあるまいかと惟ふ。

樹木に貧血してゐる大阪都市　扨ても、斯くして、よしんば住宅に相當な施設が出來た處で、現在の大大阪都市は、下水溝と間違へられるやうな枝川が市內に縱橫たる事を以て、『水の都』だとか、『東洋のヴェニス』だとか、獨りよがりの非衞生的な都市では、住宅問題の解決でもあるまい。玄黃子をして謂はしむるならば、私は『溝渠の都』とでも申し度い。是と同時に『沙漠の都市』とでも謂ひ度い。『沙漠の都市』とは、大大阪都市を見渡した處で、アノ廣袤幾哩の都市地帶中、綠樹や、靑綠の丘陵抔を見出すことが容易でなく、謂はゞ、樹木に貧血してゐる現狀である。人は唯利に焦燥し　膏汗を流し乍らも、自然に接し得べき休息場と其奧底に渴ける潤ひを求めてゐる。而して土地は、斯樣に尺土寸地も剩さゞるべく收利の算呂盤に、非衞生な間に合ひ家屋を不規則に彈き出して、生の享樂に何の趣もない生活を强ひられねばならぬ、是が『沙漠の都』にあらずして何であらう?。まあ一試みに一通り下の事實を考へてみるならば、奈何に、大阪都市の現狀は、沙漠の都である、かといふことが肯かれやうと想ふ。即ち、大阪市其ものゝ全面積を坪數に直して、一千七百六十八萬二千六百二十四坪中、現在、公園の如き一種の森林帶は勿論、貧倭な樹木によつて多少蔽地形を成してゐるものまで算入して、總面積僅に五十五萬四千三百十八坪に過ぎない。即ち、全市地積の三%に過ぎざる貧弱さである。之を各區に於ける分布?比例に概觀すると、一層其貧弱さが判つて來る。即ち、南區が一等地積を占めて、二十萬六千百七十四坪。次が東區で、十五萬六千八

百九坪、而して、西區や北區は、追に展開地である上に、埋立てや開拓地杯である地相は、樹木にも現はれて、西區は九萬七千四百六十坪、北區は九萬三千八百七十五坪、即ち、南、東のそれに比して、半減若くは三分一弱の減少である。要するに、南區には天王寺公園と上町丘陵、東區には大阪城地帶等が樹木の大部分を有してゐるから、僅に斯の二三の樹林帶?を除いたなら、大阪全都はそれ禿地の都だと謂つても差支へがない。玄黄子は、今此處に、農學士大屋靈城氏のお話しを借りたい、それは、斯く樹木に貧血してゐる大阪都市の人達、卽ち市民の多數を占めてゐる處の下級の人達が、非衛生な家屋其ものに苦しめられてゐることは、一面に、住宅の問題を超越するとも、尙且つ息のある間は、始終、其生活を脅かし、生存を侵す程な問題だからである。氏は曰く、人間の吐き出す炭酸瓦斯の量は、普通一人二十四時間七百瓦としてゐる、而して、此の炭酸瓦斯を吐出するものは、勿論人間許でなく、凡ゆる動物も炭酸瓦斯の製造者である。件の一人の吐出量卽ち七百瓦は、僅に一坪許の芝生や樹葉で、一時間位に吸收して了ふ。此の瓦斯量の放散が、空氣中に其遊離量を多くすれば、それだけ我等の生活を脅威し侵害することになる。仍で、是を清淨にするものは植物であるから、彼の近時歐米に現出せる處の所謂田圃都市の如きは、斯の關係に留意したのである、と。寔に、氏の語れる通りであるが、飜つてそれならば、大阪都市に住める人達は、現在、貧弱ながらも、一人當どれ程な樹木面積を有つてゐるであらうか、といふに、全市平均〇坪三四當りで、是を各區に分けると、南區〇四一、東區〇、四八、西區〇、二二、北區〇、二五、要するに、平均して、約三分一強坪にしか當らず、最も多き處で二分の一弱坪、最も少き處で、五分の一弱坪しか呼吸の清淨作用たる通路又は裝置を有せない譯である。而も、是は、机の上で、うどん粉を捏ね延ばすやうに、『算呂盤』といふ面棒で平面積に延ばしたのであるから、實際は、纔にほんの申譯ほどな人數が樹木の殊寵に預つてゐる外、檻へに押し込められてある動物のやう、由來群住的に氣領を狹

められある上、更に氣息の清淨作用が殆んど寒心すべき狀態裡に、生息する多數な人達のあることを思はなければならぬ。

都市計畫を前にして、今更ら斯麼事を述べ立てると、或は餘り意義がなさそうに聞へるかも知れぬが、現在玄黄子が見たる『現象の大大阪市』の一部面としては、斯麼事も書かねばならぬ。而も、斯る事を書き立てるのが無意義と成るのは、まだ十年卅年五十年或は百年も先きかも知れない。何にしても、世智辛い此の大都市生活は所謂、尻の下にもつらい思ひをせなければならぬと同時に、彼樣に吐く息さへも却々な事である。それでも、態々、『自然』の潤い自由な鄉地を捨て、此の息さへも容易に吐き得ない都市生活を望むで、益々蝟集し來る人達、都市に生活の享樂を欲して、實は、却つて、生活を打ち壞しつゝあることを餘り深く省察せないやうである。單にそれ許でゐない、其都會生活に生の享樂を望むで來た人達の多くは、其希望を最も充實的に實現せしめる處の、現代の都市計畫なる事や、都市其もの抔に就ては、餘りに無關心で、餘りに智識の貧弱さを、隨時隨所に曝らけ出してゐるのには驚かざるを得ない。否な、寧ろ、其矛盾と瞳若さを餘り自覺せない傾向のあるに呆れざるを得ない。玄黄子は、以上兩回に亘つて、大大阪都市に於ける二三の現象を書いた、そして、斯の雜誌は建築なる關係に在るからでもないが、どうしても、住宅といふものに、別して都市生活の問題が歸着する樣である。そうして、住家は、生活の三要件たる衣食住の『住』といふだけではいけない、其處に、『住』を構成する處の、生理的、文化的諸多の要素を見逃してはならぬ譯に往かない。斯くて、住居は、恐らく、生活上凡ゆる問題の出發點であり、又歸着點である、と謂ふも、强ち過重の見方ではあるまい。『現象の大大阪都市』を、現代の不合理な、非衞生な、そして亦或程度に於ける非文化的な現象より救ふのは、所詮斯の『家』といふ問題が其楔子である、と申述べて、筆を擱く。



〔住宅〕

住宅研究（六）

會員 建築工學士 葛野莊一郎

八、衛生

人として健康を欲しないものは無い。また事實健康であるといふ事が、何よりも幸福である。住居が、其配置構造設備に就て、衛生に重きを置き其居住者の健康を保障し得る事を以て第一義とするのは、議論の無い事である。古來家相だの地相に關する俗説も、其多くは居住者の健康に係る事が多い。病氣に罹つたり死ぬ事は出來るならば避けたい。吉凶の主とするところが、多く疾病に關するところから、俗説をも眞面目に信ずる樣な傾向を、多く生ずる樣に思はれるのである。

第一 給水

住居として先ず大切な問題は、良い水が充分に供給せらるゝ事である。二十日間位は、普通の健

康體ならば食物なしに生きて居られるさうだが、水なしには一週間もむづかしいといふ事である。給水の水源として、吾人の求む可きものに

a、雨　水
b、湖　水
c、河　水
d、湧　水
e、井　水

の五種を數へる。雨水は純潔で、有害な瓦斯を含有する事が最尠い。人口の稀薄なところとか、岩質で、井戸の堀りにくい地方では、雨水を以て飲料及び雜用にする。我邦でも小笠原島の如きは其一例で、大きな桶に貯められるだけ雨水を貯藏する。歲により季節によつて、雨量の充分無い時には隨分困るのである。從つて左樣いふ地方では水を非常に大切にする習慣が自然と發達して一滴の水をも容易に捨てない工夫をするのである。

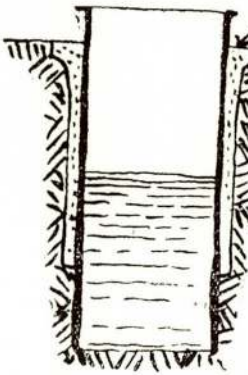
雨量は土地によつて、同一地方でも著しき相異がある。大阪府下でも、天王寺以南泉北郡一帶岸和田町附近迄、一ヶ年平均千三百粍、即ち一坪當り二十三石七斗九升に對し、北攝天王附近は、千八百粍、即ち一坪當り三十二石九斗四升、妙見山附近千六百粍即ち一坪當り二十九石二斗八升、箕面生駒千早葛城深日方面は千五百粍、即ち二十七石四斗五升と云つた樣な各相異がある。郊外住宅地で割合に水の不足するところは、屋根から落ちる雨水を適當なタンクに貯藏して、是を雜用に利用する事は、勞尠なくして効多く、實驗に値する事だと信ずるのである。雨水は地表より一部蒸發し一部は流動し、一部は地下へ滲透して他の水源となる。雨水から塵芥や挾雜物を排除するに、ロバート氏のレーンウオーター、セバレートルがあるが、斯種の考案は、我邦には、未だ一向顧みられては居らない樣である。

湖水は雨水に比しては、雜物を含有する事が多い。是れは重に地表を流れて來る水が溜るのであるから、雜物を浮揚或は溶解の形で含有する事は當然で有る。

河水も亦湖水と同樣、地表水によるのであるから、挾雜物を多く含んで居る。又其流域に大きな

都會や村落が有ると、自然其れ等の汚水をも含んで來るし、田畑の排水の如きも同樣、下流に降る程不純な事は勿論である。

湧水即ち自然に湧き出る水は、透水性の地層の下に、不滲透性の地床が横はり、其一端に抜け口のある場合、そこに湧水がある。是れは其水の通過する地層の性質如何に依て、水質も亦色々に變化するのである。



井水即ち井戸水は、淺いのと深いのと二種類あるが、其淺い普通の井戸は、土壌を通じて來る水が大部分であるために、有機物を含有する事が多いのが普通である。深い井戸、即ち堀抜井戸は、地下五六十間乃至百間以上も深い處の水を、水源とするので、水質も一般に良く、水量も豐富なるを普通とするが、其通過する地下層如何によつては、水質にも種々變化あり、また井戸の生命も割合に短かい。都會地の水道の有るところは別として、一般に我郊外住宅地では、完全な水道裝置のあるものは皆無で、井戸水を以て飲料とするのが最普通である。淺い井戸は季節によつて其變化著しく、構造の不完全なものでは隨分危險も多い譯である。大阪府衛生課で行つた府下の井水檢査の成績を觀ると（百分率）

	飲料適	濾過適	煮沸適	不適
西成郡	一三、	一一、	二、	七四、
東成郡	一三、	九、	一、	七七、
泉北郡	三〇、	一五、	三、	五二、
泉南郡	四〇、	一三、	一〇、	三六、
北河内郡	三二、	二〇、	一、	四八、
中河内郡	三五、	七、	一一、	四五、
南河内郡	四六、	七、	一一、	三五、
三島郡	五二、	一八、	二、	二八、
豐能郡	四九、	一七、	一、	三三、

右の通りで、總數七萬八千八百八十一の井戸を

檢査して、是を百分比に示した、最信頼し得る數字である。即ち右によると、最成績のよいのが、三島郡で、百分の五十二が飲料適、百分の十八が濾過適、百分の二が煮沸適で、百分の二十八が全然不適とある。次は豊能郡、南河内郡、泉南郡、中河内郡、北河内郡、泉北郡、西成郡、東成郡といふ順序である。右の表によつて知らるゝが如く飲料水としての井戸水は、たとひ同一地方でも、必ずしも其凡てが適當だとはいへない、適否種々であり、事實甚だ信頼するに足らない事が知らるゝのである。

水の使用量に就ては、土地によつて著しく相異する。古羅馬人は、一日一人三百ガロンの水を消費したといふ事であるが、是れから觀ても、如何に古代羅馬人が贅澤に有つたかゝ識られる。現今でもニューヨークの百ガロン、ロンドンの三十五ガロン、パリーの二十八ガロンと云つたような割合で、亞米利加人は歐州人に比して、著しく水を多く費ふ樣である。

水に含まるゝ不純物としては、アンモニア或は固形物等の溶解せるもの、塩素化合物、炭酸カルシユム、硫酸カルシユム、黴菌或は其他の有機物寄生虫の卵等で、此内でも飲料水として、最恐る可きは病素黴菌である。水中の不純物を除去するには、

1 濾過及沈澱
2 蒸溜、漂泊
3 煮沸及蒸溜
4 窒素を含有する有機的微生物の酸化による淨化作用

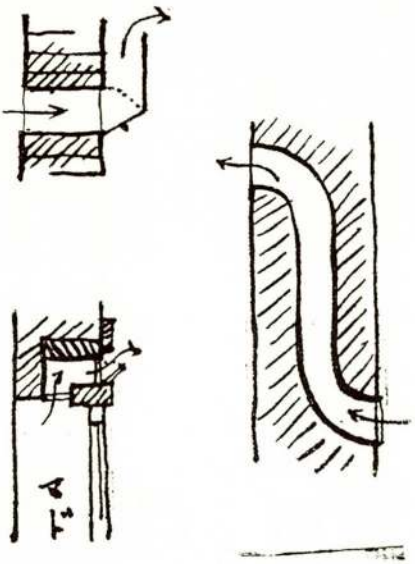
等である。濾過には砂利及砂を用ゆるのが最普通であるが、バーシイ氏の説によると、微生物の百分の九十五迄は、砂濾しによつて除去し得るといふ事である。

第二　換氣

新鮮なる空氣は、清良なる水と共に、人間生存の上に最必要な事は勿論である。不潔な空氣の人體に及ぼす影響は、吐氣を催し、頭痛を覺え、壓

迫の感を與へ、眠氣來り、倦怠甚しく、食氣を失ひ、注意力を散亂する。凡て換氣法の第一要義は室内の一部に、空氣の停滯を防ぐ事である。普通は、特に換氣法の設備を整へず、單に窓の開閉、扉の開けたてによる處の自然換氣の方法に依るので

第五圖　煖風口



あるが、多數人間の集る樣な目的の室では、是れでは不完全を免れない。空氣は、其温度華氏五十度の差に於て、容積十分の一を增す、即ち五度ならば百分の一を增す割合である。冬季は成る可く床に近いところから、空氣を入れるのが宜いが、室に入れる前に、相當の温度に温めて置く事は勿論で有る。夏季は冬氣とは反對に、成る可く天井に近いところから空氣を入れるのが宜い の方法は獨乙の學校等に採用して居る方法である。凡て空氣を入れる穴、即ちインレットが、曲つて居る場合は、百分の二十五を減ずる。

空氣の成分は、二十一ペルセントの酸素と、七十九ペルセントの窒素から出來て居るが、外に炭酸瓦斯、アンモニア、オゾーン、水蒸氣、アルゴン、有機又は無機微細物、黴菌を含んで居る。酸素は、瓦斯、暖爐、蠟燭、洋燈等の燃燒、呼吸、有機物から發する瓦斯、臭氣、霧によつて其量を減じ、雨及び植物によつて其量を增すのである。

空氣中に含有する不純物を擧げると、

1 炭酸瓦斯 CO_2
2 一酸化炭素 Co
3 硫化水素 H_2S 及亞硫酸瓦斯 SO_2
4 沼　氣
5 アンモニア

6 塵埃及黴菌

である。炭酸瓦斯即ち無水炭酸は、炭素化合物が空氣中で燃燒し、或は動物の呼吸の際發生する瓦斯で、本來此瓦斯その物は有毒では無いが、其の分量が多くなると、空氣を稀薄にし窒息作用を促すのである。山上の空氣の新鮮な處では、一千立方尺に對して〇、三を含む、それが群集せる室内の如きになると、三、〇に增加する、平均〇、四を標準として居る。ガルトン氏の說によると、一、五から種々の障害が現はれるので、二、五となると蠟燭の火を消し、五、〇となれば窒息死に至る。一般には一千立方尺の空氣に對し、〇、六以下である事が必要で有る。一酸化炭素は不完全燃燒によつて發生する瓦斯で、極めて有害なるは勿論、其中毒には殆んど治療を施し得ずとされて居る。ガルトン氏の說によると、〇、五より有害で四、〇の含有量にあれば死を來すといふ事である。硫化水素は下水だの、地下工事、汚池、瓦斯工場附近等に存在し、有害である。亞硫酸瓦斯は煤烟中に存在し、是亦有毒瓦斯であるから、我が大阪市の如き工業都市では問題になる。沼氣は汚池及び炭鑛山等に發生する瓦斯で、マラリアの危險を招き、蚊によつて傳染せらるゝ。アンモニアは腐敗物及動物の臭氣より發生する。塵埃の空氣中に浮ぶことは、實に驚く可きもので、透明の如く見ゆる空氣でも、常に無數の塵埃を含んで居る。殊に都會の空氣は不潔甚しく、一立方センチ中に塵埃數五十萬に達する事さえあるのである。塵埃の四分の三以上は岩石の細片である砂粘土より成り、餘は澱粉、馬糞、羽毛、纖維、動植物の細片、炭紛等である。黴菌は、乾燥地よりも濕潤なるところに發育し、空氣中に浮ぶものとしては腐敗を誘起する菌の外、ペスト、結核、破傷風、惡性水胞等の原因をなす病毒菌がある。

本來空氣中に混合する不純物以外に、人間の呼吸によつて、是を一層不潔にするために換氣が必要である。呼吸は酸素を減じ、炭酸瓦斯を增し、水蒸氣、アンモニア、有機物を附加する。また皮膚より多少の臭氣を發散する。平均一人一時間に發生する炭酸瓦斯は、〇、六立方フードである。

石炭の空氣中の燃燒も、多量の炭酸瓦斯、一酸化炭素、亞硫酸瓦斯其他の不純物を發生する。

換氣を要する空氣の容積に就ては、婦人及小供は、男子に比して婦人は三分の二迄、小供は二分の一迄減じ得るのである。普通成人一人一時間に汚す空氣の容積は、三千立方尺である。是れは一人一時間の炭酸瓦斯發生量、〇、六であるから、三千立方呎の容積ならば、普通空氣の含有量一千立方呎に對して〇、四を標準として計算が合ふので有る。實際問題としては、全然エアタイトの室は無く、多少自然換氣の援助あり、一人一時間一千立方呎ならば充分である。卽ち

20′×15′×10′

の室ならば三人の成人が、何等換氣裝置なくとも、一時間は堪えられるといふ事になる。學者によつては、一人一時間の量を五百立方呎迄に低下して居る。フード氏の說では一人一時間

居室	千二百立方呎
寢室	九百立方呎

を標準として居る。

室内空氣の通入口及換氣口に就ては、一二の例を圖に示すが如く種々の考案がある。コルフイールド氏の計算では、毎一人に對する通風口卽ちインレットの大さ廿四平方吋を標準として居る。凡て通風口は換氣口卽ちアウトレットより稍大とするのが宜しい。他の學者によると更らに三分の一位のものでよいとも云つて居る。

室の大さ	人	瓦斯バーナー	通風口の大さ
10′×10′	二人或三人	二箇	9″×3″
16′×12′	三人或四人	三箇	9″×6″
20′×16′	四人或五人	四箇	9″×9″

右の如きを大體の基準とすれば、略適當な大さが得られるであらう。（未完）



〔講壇〕

歐米の住宅問題に就いて（下）

名譽賛助員
工學博士　直木倫太郎

（六）

倫敦市に於ける家賃の狀態は戰前から見る物價が四倍から暴騰して居るに拘はらず、政府は家賃十七圓以上四十六圓以下のものは一切家賃を昇げることを許さず。（一九一四年以降）スコットランドにては廿圓を最低としてゐる。從つて民間に在つては家を立てることも出來ず。又家賃を上げることが出來ず、故に修繕は全く中止の姿となり現在住宅は皆非衞生的住宅となり終つた樣子で、これには政府も戒心を加へ、昨年七月改正となり、家賃は四割上げることを許されたるも、先づ初年は三割とし其二割五分を以て修繕費に使用すべき條件に附したのであります、從つて次年よりは四割となし得るのである。

尙英國政府の政策としては市を督勵して本問題

に努力せしむるのみならず、住宅組合、住宅會社の經營を奬勵し、資本額の四分の三の資金を提供して六分利附に貸與するのみならず、五十年間に償還せしむるの途を開き、又個人の家にも補助を與へるとも本年より着手した事と思ふ、則ち政府の認め勞働階級に在る者は、工費の四分の一の補助を與へんとするのであります。

又衞生大臣の直轄の役所を十一箇所に分配し、設計を調査し、材料の選擇運搬等の方法を研究せしめ、早く建てる方法を講ぜしむる有樣で、煉瓦及ガラスの如きは不足分を軍需大臣の管下より供給せしむる有樣であります。

斯くの如く政府の努力奬勵の大仕掛な仕組で住宅の急造を計畫しても、案外良好な結果が擧らず不足は何處迄も不足にして困るので、昨年は追加法令として人の住み得る家は破壞することを禁ずる事となり、又贅澤な建築は一切許さないといふ有樣で倫敦府廳の建築の如きも、全く中止の已むなき次第であります。それと同時に一時盛に非衞生的住宅の絶滅を叫んで居つた聲も止み、又其實行も中止して居ります。

扨て以上御話いたしました通り、英國に於ける現時の住宅問題は單に家を建てるといふ丈でなく其出來上つた住宅は出來る丈理想的設備を有しなければならぬ、獨立家屋で庭園は勿論裏には畠、又所々に運動場、公園を配置しなければならぬといふのですから、出來得る限りに於て美しく理想的にやらうといふのでありまして、現在經營中の住宅地の如きも、家屋の美觀は申す迄もなく其街路や庭園に配列してある樹木美に至つては、寔に奥行かしく、如何に彼等の努力は尋常ならざるかを知ることが出來るのであります。

又英國に於ては最小三箇の室を有せしむる方針で、而も安價の家賃たらしむるといふので、天井の高さも倫敦にては八尺と決めましたのに對して（スコットランドにては九尺）勞働者側の希望として八尺五寸を要求し來り、又長屋建間仕切の厚さ三吋は薄しとの苦情が出で、目下衞生大臣は研究中であるとの事でありました。

（七）

扱てもこんなに大仕掛の仕事と要求であるに拘ばらず、思ふ程住宅の供給が出來ぬのは、職工組合の鼻息却々荒く、苦情や要求が起り甚しきは同盟罷工をやるので、これが實際上に支障となつて居るとの事であります。尤も此等の職工は一九〇九年以降は仕事がなくなり來れる苦境に際して、徒弟の從軍する者あり、戰後人手不足に需要急增し且賃錢問題も起るといふ風で、今や仕事を大いに行らうといふ時期に到つて、却つて彼等の鼻息荒くなり、退役軍人を徒弟とするの案も組合にて却々承知せず、政府は大いに骨を折りつゝあり、漸く退役軍人中の片輪連を採用することとなりたるも、雨天の際の賃金問題が起つて、首相ロイドジョウジ氏は別途に約一億圓の資金を融通して道路を開鑿するの工を起し、職業不足の現狀を緩和する等政府も隨分と苦心を拂ひつゝあり。組合の連中は敎育ある者少なき關係より、煉瓦工の如きは一日の積上高の多少に關し紛議を起すといふ有樣で遂に同盟罷工をやるに至り、新聞雜誌は盛んにポンチ繪を揭載せり。

蓋し此等の事情は建築費を高め家賃を高むるの結果となる。仍で、政府は此等の組合の鼻息を緩和するに努力しつゝあるが、マンチエスター市の如きは、職工組合より申出あり、實費と一割の利金とを以て一箇の受負としたいとの交涉起り、市役所は材料の收集運搬の便利と保證を計れとの要求出で、畢竟往時の「ギルド制」に組合組織を復活變更せんとするに在り、尙研究中なる由であるが、此の「ギルド制」復活說は倫敦にても既に反響を起し漸次各市に波及するの勢とならんか。

以上大體大略の御話を致しましたが、英國に於ける住宅問題は最も徹底的に解決せん意氣込ですから、素人觀を以てしても却々面白く觀られるのでありまして、倫敦市役所の如きは昨年七月「住宅公債」を賣出す際には大々的宣傳を初め各所に「ポスター」を揭げ、學者や僧侶や、勞働者や、退役軍人等の熱心な路上演說があり、又隊を組みて市中を練り步く連中があり、活動寫眞や劇場でも

盛に宣傳（キャンペイン）を約一週間行つて居りました。

其結果豫定額五百萬磅の中百二十萬磅の賣行を得たる由なれば、約四分の一額を得た譯であります此公債の額面五磅六分利附五十年間償却でありますから、刻下の問題を救濟するのみならず、利益は多大であるぞよ、といふ意味の宣言をやつて金持連に要求して居るのでありました。

各市も亦倫敦に倣ひ同じく七、八、九、十の四ケ月に亘つて各一千萬磅宛の公債賣出をやつた筈であります、從つて總額四億二千四百萬圓を集めた事になりませう。

右の外住宅建築の安價なる樣、材料の工夫、構法の研究等が盛に發表され、建築時日短縮を計るため、屋根を第一に架上するの方法抔、又コンクリートグロックの使用等却々目新しい工夫をやつて居る樣でありました。

甚だ要領を得ぬ話ですが、先づ大體の御話を申上げました。（畢）

秋四首

久方の雨間も置かず雲隱り鳴きぞゆくなる早稻田雁がね

雲隱り鳴くなる雁の去きてゐむ秋田の穗立ち繁く思ほゆ

雨隱り情（こころ）いぶせみ出でみれば春日の山は色づきにけり

雨はれて清く照りたるこの月夜また更にして雲なたなびき

度量衡規格統一に就て（上）

工學博士　佐藤功一

種々私が度量衡と云ふことに就て考へて見たのに度量衡と云ふことは御承知の通り「物の測定」と云ふことである、如何なる人でも此方のものが此方のものより大きい、此方のものが此方のものより重いと云ふことは、小さい子供でも多少智識の出來て來たものは直ぐに浮ぶことである。併しながら是れは單なる感情であつて智識ではないのである。是れが智識となるためには此方の長さが此方の長さの何倍ある、或は此方の目方が此方のものより何倍あるかと云ふことにならねば智識とならぬ。茲に度量衡と云ふものが生じて來る謂れである。最初人類は度量衡の問題をどんな風に行つたかと云ふと、如何なる野蠻人でも最も手近なものを以て測らうとしたものであつて、大抵人間の身體を標準とした。例へば英吉利の寸はあれは羅馬で用ゐたが、足の長さを標準にしたのである。今日から見れば大分大きいと思ふが足の長さから來て居る。支那に於ても或は頭の毛を幾つ集めたものとか、或は書物を見ると、私は了解が出來ぬが手の附け根から一寸下の所に丁度動脈が現はれる、之れを以て一寸と決めてあるやうに思ふ。凡て原始時代に於ては度量衡と云ふものはさう云ふものから來たやうに思ふが、此の度量衡と云ふものは商賣の關係では最も重大なものであり、科學が進んで來ると物の測定と云ふものには非常に精密な度量衡を要するのであつて、ズツと精密な度量衡の出來たのは、歷史に依ると、紀元前二千五百年にバビロニヤの官吏が度量衡の明細なる規定を作つて居るのである。是れは御承知の通り鎖形の文字になつて居るものですが、支那に於ても是

れは極く古いことであつて、例へば書經を見るとあれには「律度量衡同じうす」と書いてある「律」は音律ですが、彼の音律の測定が支那では喧しかつた、今日では「寒暖計度量衡同じうす」と云ふ所であらうと思ふが、支那では音律が喧しかつたから、律の文字を使つたのであつて、さう云ふ風にすつと昔から度量衡の問題は喧しかつた。それで度は物差しのことを云ひ、量は「はかる」と云ふ事、重さを明かにすと云ふことであるが、桝目のことになつて居る。衡と云ふのは「おもり」をかける、權衡の「衡」がおもりである。是は目方であるが、先程云ふ通り度は即ち物差しである。支那の古書を見ると「十髪を以て一程……」頭の毛十本を以て一程とす、而して一程を以て寸とするとあるが、總て曖昧なものであつてをかしいけれども、夫れより他に途がなかつた。或は又黍も使つた、其時分の重要食物は黍であつたから十の黍を集めて一寸とした。其の精神に於ては度量衡をキッチリ決めると云ふ精神はあつたが、如何せん、物質科學が進んで居らぬからそう云ふものに依つて度を決めるより仕方なかつたのである。また目方の方でも矢張り黍を以て目方として居る。十の黍の重さをルイとし十六粒を釿として居る。是れなどは今日の度量衡に於ては十進法を主なものとするに十と云ふ字を使ひ、或は十六と云ふ字を使ひ非常に妙な數がある。或はまた粟を使ふ、十の粟を以て一分とし、或はまた豆を使つて居る「六の豆を以て一寸とし」と云ふやうに穀物を使ふ英吉利のクローネと云ふのも何う云ふ所に據つたかと云ふに、昔農業時代には小麥の粒に依つたものであつて、斯の如くに古くから度量衡と云ふものを正しく決めやうとしたが、物質科學の力が進んで居らぬから已むを得ず茲に種々な數字がある譯である。歐羅巴にても極く古い時から寸では吋目方では封度或は噸と云ふ字を使つて居るが何れも羅馬で使つて居つた。溯つて見ると希臘のものもあるが、大抵羅馬に統一されたものである。ところが羅馬が亡びてから各種に分れたが、比較的羅馬の定めた度量衡に近いのは矢張り伊太利の各都市に使つて居つた度量衡であつて、又是が一

番古いけれども、それでも同じ呎に於ても、是れは英吉利の尺で九吋から十二吋、零ポイント六四くらゐの吋まで大變な差がある。斯の如くにして歐羅巴に於てメートル式の決まらぬ間は各都市に依つて異ふのみならず、各物品に依つて異ふ。殊に甚だしかつたのは封度である。封度の異ひと云ふものは、メートル式採用前は歐羅巴に於て殆んど數百種あつたと云ふ有樣であつたから、是を何とかして統一しなければならぬと云ふことになつて居つた。乍併學問が進んで居らぬからキツチリと出來なかつたが、丁度文藝復興以來十七世紀に於て佛蘭西が歐羅巴に於て權力も學術も進んで居つた時である、時は即ち千六百七十年である、ルイ十世の時にガブリエルムートンが一の式を案出して度量衡の單位は一定不變のものでなければならぬ、それには基礎を地球線に置くことを理想としなければならぬと云つて子午線を測定して、さうして其の廻りを四千萬分の一を以て長さの單位とし、之れをメートルと名けたのである。それでメートルと云ふ字は元來は「メトルーム」と云ふ字から來て居るものであつて、メートルと云ふことは物の測定と云ふことに使つた。解り易く云へば「ダイヤメートル」と云ふが、是れは必ずしも英語でない、拉典語であるが、メートルと云ふ字は測定と云ふ字である。

それから一方に於て目方の方を何うするかと云ふことに就ては、目方は攝氏四度の水を取り、それの一立方センチメートルを基本として之れを一グラムと名けた。學者は之れに及ぶものはないから何うかして是れで統一したいと思つて宣傳したが、物の最初と云ふものは却々行はれぬものと見えて、たゞ宜いと云ふことが世評に上つたゞけで行はれなかつた、其儘百二十年を經過して千七百八十九年に至つたが、其時は丁度ルイ十六世が斷頭臺で殺されて世の中が共和政体になつて人民も新しい物を要求した時であつたから、千七百九十年に共和政府はムートン式の調査機關を設けて、多數の學者をして此の研究に從事せしめたものである。さうして其の結果ムートンの理想に基き、子午線の四千萬分の一として、之れをメートル

原器と名け、同九十五年に之れを國法として、之れを強制したが、苦情が甚だしくて波瀾があつた爲めに、ナポレオンが皇帝になると、ナポレオンは大分人民の機嫌を伺つたものだから、そんな事をせぬで宜しいと云つて之れを緩和しやうと思つて勅令を發し、再び元との習慣に依つても宜しいとした爲に、割合に此の統一が遲れて參つたのである。斯の如くして佛蘭西政府が種々と統一方法を考へて、或は學校の敎育にもメートル式を強制したり、官廳でもメートル式を使ふやうにして、丁度千八百四十一年である、ムートンが考へてから約二百年後のナポレオン三世の時に初めて一般國民に向つて專用を強制し、實際の効果を收めることになつたが、メートル式は是れほど苦心して出來たのである、斯う云ふ風にして佛蘭西に於ては國内の一般度量衡が自然決まつて來たから、歐羅巴各國も之れを見て羨ましがつて、先づ露西亞が一番に之れを採用し、さうして國際的の度量衡を起さうと云つて千八百六十八年巴里に於て之れが會議を開いて子午線を本とするとには異議がないが、學術が進むに隨つて其の測定法に誤りが出來て來るから、唯子午線の千萬分の一では可かぬ、もつと確りした不變のものを使はねばならぬ、それには、寒暖に對して伸縮の少ないのは白金九と一の合金と云ふことであると云つて、其の合金を造つて之れを佛蘭西政府が保管することになり、千八百七十五年、日本では明治八年初めて歐羅巴の十六ケ國と云ふものが合同をして國際メートル條約を締結したのである。是がメートルが世界的になつた基である。斯うして今日までに約五十年を經過して居るが、非常な速力で此のメートル式が世界に普及して今日では專らメートルを使ふ國が三十一ケ國となり、此度の世界戰爭が更に其の機運を進めて或は比較的短日月に之れが國法の實現を見ると思ふ、即ち日本にては既に發布になつたから、英吉利や亞米利加に於ても日ならず之れが國法となることは疑ないやうに見える。



〔資料〕

都市社會事業と社會事業家（下）

——（ハル・ハウスのミス・ゼエーン・アダムス）——

岩村貫三郎

（J）

前述した如く市加古市に、世界大博覽會が開かれた次の冬、米全土を襲ふた經濟界の大恐慌は、殊に市加古市に於て慘憺たるものであつた。市當局者は一時的な救濟事業を起すために、巨額の費用を支出した。女史等もハル・ハウスに於て出來得る丈けの救濟事業を擴げた。冬の日に狹くて汚い裏長屋やら破損して修繕の術もなさうな小舍に、酸鼻な幾場面々々を見舞つた。此頃である、女史の心中に一種の反動が生じたのは。彼等の多くは寒氣に慄ひながら、風雨を完全に凌き得る設備さへもないのに、自分は獨り温かいふくよかな夜具の上に安眠をしてゐる。これを考へ乍ら行く

時に一種の思想がはぐくまれて、不思議にも教育上、慈善上の自分の活動がなまぬるいやうに感せられて來た。その絶望的な飢餓や缺乏に面しては之れ等は皮相な焼け石に水を濺ぐ愚かしい業としか思へなかつた。ハル・ハウスを音なふ友等の間にも、不知不識の間に同じ思想が通つて居た。或娘は自分の父の所有である倉庫に行つて、使用人であるボーランドの娘等と仲間になり、不潔な襤褸切を撰り擇ける職業に就いた。他の娘は一ヶ月間仕立屋に行つて勤勞した。他の娘は靴工場の女工になつた。かうして彼等は彼等の必要に迫られて來たのではないといふ印象を、雇主や同僚の誰にも起させたことのない程に、忠實に働いた。女史に於ても貧しい日暮、激しい勞働の運命を共にせねば、ハル・ハウスの事業も『貧民と共に住む』といふ單なる衝動から發した出來心に過ぬ如く思つた。かうして懊惱は二年の間たゆまなく、一八八一年のモスコウの冬、言ひ難き內心の苦痛と要求とより救はれんとして空を打つ如き努力を續けしかも人生問題の惱を療すによしなく、遂に一切を捨て貧民自らの運命に身をおかねば良心の懊惱より逃るゝ途なしとの結論に達したる徑路を記した處のトルストイの『我等は何をなす可きや』を讀んで、女史の內心の苦闘は頂上に達した。彼女は學校生活を了へて以來『我宗教』を手始に、トルストイの著書には新刊物を遂ふて親しむでゐた。こうして彼女のトルストイを訪問せんと欲する熱心は度を加へて來た。如何にしてトルストイは、日々世界の筋肉勞働生活に與かるとによつて、內心の平和を確立するを得るに到つたかを知らんとして。

時しも一八九五年の秋膓窒扶斯に罹り、恢復後の翌冬も健康思しからぬため、養生の目的で一友と共に外遊の途に上ることゝなつた。

こうして彼女の言葉を借れば『豫言者としてではない……彼の良心の標準に迄、己が良心を引き上げ、彼の理論を行爲に飜譯し得る』この露人に、會見し得る機會は近づいて來た。トルストイの『復活』以後の英譯者として有名であるモスコウのアイルマー、モウド夫妻に、紹介狀を携へて

行つた。モウドは南英國に於て農業植民地を設け自分等もそこに額に汗をして衣食せんとする理想を行はんため、今や露國を去らんとしつゝある時であつた。更に彼によつて女史はトルストイに紹介せられた。自分はこゝに女史のトルストイとの會見記を記す必要を見ない。唯ヤスナヤ・ポリアナ訪問の結果、彼女の心美は益する處も多く、誠實なるこの人道上の努力が、益々眞率にせられたを記しおくに止る。

併しこゝに一つ此頃のトルストイの面目を、躍如として現はしてゐる挿話があるから、それは加へておかう。モウドが彼女を米國の博愛家として彼女の事業をやゝ誇大に紹介してゐる間、百姓服を着たトルストイは、端嚴な面持で聽いていたが不審さうな一瞥を注いで、彼女の莫迦に大きい旅行服を見乍ら、袖を執て餘分の部分をこしらへ、『この餘分の布地で、娘の上衣が造れるが』『こんなものを着てゐては、民衆に接觸することが難かしくはないか』と極く自然に且つ單純に質問した又どうして衣食の費用を得てゐるかとの問に、女史は『加古市より百哩程距たつた地に、田畑を有つてゐるが、そこから上る小作料で生活してゐるといふ答に對して『では留守の地主といふわけであるな。だがあなたは自分自身の土地を耕やすよりも人口密集の都市に出る方が、ヨリ多く民衆を助け得ると思ふが』と。餘談に岐つたが、もとに歸らねばならぬ。

右の如き經濟界の大動搖前後の、市加古市の人心の動搖は甚しいもので（それは今日より數へて凡そ廿六年の昔）、ヘイヤー・マーケットに暴動が起り、社會問題の演說會あり、無產階級者の示威運動が生じて居た。一八九〇年より一九〇〇年の一年間は、社會施設實行の宣傳の時代であつて、大旆を飜して運動が行はれた。そして此年の冬に市加古市の有力なる市民の助言と援助によつて、無政府思想の曝發を避くる唯一の道は、政府反對者の懷抱せる思想や不平を自由に討論せしむることゝである、常に一烟を吐ける火山は比較的安全であるとの考から。毎日曜日の夕、公開大集會を開き、代表的の市民の主催の下に何人でも自由に

自己の意見を發表し得る仕組にした。『何人と今日かゝる集會が、市加古市に開かれしことありとは想像し得ざる可し』と女史の記す處を見れば、當時の事情と今日の狀態とに著しい變化のあることが判る。

兎に角當時はさういふ狀態の下にあつた。ハル・ハウスに集つた男女青年等は、初め社會の害惡の救濟の意識から、博愛的、社會施設的活動にその鎭痛劑を發見す可く來たのであるが、從來の經驗は彼等をテディカリストに驅てやるとは許さなかつた。彼等は時代の要求に動かされずにおれぬ。相互に意見を違へてゐる多くの者が、一堂に會して語り合ひ論じ行けば、他の位置にある思想の眞理を認識し、寬容を學び得るに至らう。恐る可きは己の說が唯一の眞理であつて、これを實世界にその儘適用して誤がないとする獨斷にある。さういふやうな意見から、一八九〇年にハル・ハウスでは『勞働者の社會科學クラブ』なる集會を設けた。每週金曜日夜、各夜來會者中から議長を選み既定の演說者の演說一時間の後、各自が一時間自由に論じ得るやうにした。この企は七年間持續した。さま〴〵の名士も來て、こゝに演說をした。

（K）

ハル・ハウスに於ける藝術に就て記さう。女史は美術・音樂・演劇を通じて、勞働者の趣味の向上を圖り、品性の陶冶を企てた。

ハル・ハウスのために設けられた最初の建物には、繪畫陳列場が加へられてあつた。こゝに初めて開かれた展覽會は、一八九一年六月、倫敦のバーチット夫妻の開いたものであつて、自己の所藏に加ふるに市加古市が提供し得る最良の繪畫を收めたものであつた。女史等は非常に注意深く火災に對する備をし、晝夜ともに嚴重に看視した。かうして著名の繪畫を所有する市民から繪畫を貸借して、二年間に五回の展覽會を開いた。多數の觀覽人があつた。暫時の間にせよ慘憺たる現實を逃れて、美と想像の世界に遊ぶハル・ハウスの隣人に與へた效果は著しいものであつた。最も人氣あ

る繪畫に對し、投票を募る如き企もあつた。移民等は米國に於て、かゝる美術の慰安を受け得やうとは思ひ設けぬので、喜は大なるものであつた。或伊太利人は、米人はドル以外には愛するものなしと思つてゐたが、案外であつたと告白した。或希臘人は渡米前●米人はアゼンスの繪畫を見ることを熱望しておろうと思つて、彼がアゼンスの住民で、工藝學校の出身者である處から、米人の喜ぶと思しい寫眞や彩色繪畫などを用意して來た。而して多くの米人に古代希臘に就て話しても、何等の反響もなかつた。十三年間米國に住するも、彼の得た印象は、結局米人は實用主義の國民で、この藝術の源泉に對しては全然無理解であるとの結論である。然るに端なくもこの展覽會で、アクロポリスの寫眞を見て驚いた。反響は多大であつた。

こうして展覽會は、市加古美術協會が設立せられて、毎日曜日午後一般公衆に繪畫の展覽をなさしむる施設の起る迄開かれて行つたのである。

同時にハル●ハウスの方庭に、畫室、技術室を設けた。畫家はこゝに來て己の製作に從事した。彼等は又近傍から生徒を募集して畫を敎授した。少年少女等の間には、才能秀づるものも見出された。だが生徒は兒童や青年に限らぬ。比較的老齡の人もやつて來た。四名の子供をかゝへ、ピアノを敎へて家計を支へてゐる或寡婦の如きは、六年間毎週一日も畫室に姿を見せぬ時はなかつた。又或婦人は身體弱き夫を助けて働く傍ら、毎週一日畫室に來ることが大きな愉快であつた。こういふ風に、大人の生徒には高尙な娛樂となつてゐたのではあるが、最も秀れた成績を擧げ得たのは、職業の目的でこゝに來る少年少女の製作物である。彼等にとつてこゝには遊戲と勞働とが一致してゐた。勞作に一心を打込む處、誘惑の窺ふ餘地がない。ハル●ハウスに居住する市加古市の美術協會や技藝協會の會員の訓練を受けた後、彼等は自己觀察を畫布の上に表現したり、木や金屬に己の心を刻み込んだ。こうしてなつた銅版畫●彫刻●ポスター、樣々の插繪は、一箇の商品となつて、ハル●ハウスの內に十年の間不斷に設けられてゐた店頭に姿を現したのである。

音樂會は最初ハル・ハウスに移つた翌冬から始めた。初めは客室に於て催したが、聽衆が漸次に增加したものであるから、後には大講堂の方に變へた、市加古市の各方面の音樂家から、多くの援助を受けたが、殊にウキリアム・トムリンは、青年男女を集めて大合唱團を造つた。勞働歌も募集した。その頃は勞働者の謳ふ歌は、矢張り低級なものであつて、ストライキの際にも價値ある彼等の合唱歌はなかつた、一八九三年にはハル・ハウスの中に音樂學校を開校して、生徒を限つて彼等を敎育した。彼等の心に寄せくる暗示を統一しこれを作曲する術も敎へた。殊に喜ぶ可きはこの生徒等を通じて、各移民の部落の間に、彼等が祖國から携へ來つた民謠を復活させることが出來た。紙上には印刷されぬが、世界がはぐゝめる、不滅の詩情を含む處の、幾世紀も亡ぶることなく生くる彼等の民謠を、米國に來つて今新に聽いた時に、移民等は立つばかしに喜んだのである。

更に演劇をも始めることになつてゐた。人生が客觀的に描き出さるゝを、眺めて樂しまんとするは、歐米人にとつては本能と言つていゝ。演劇は贅澤品でなく、日用品なのである。であるからこの工場區域でも、全民衆悉く劇場に行つてゐる、女史は、午後二時から始まるハルステッド街にあるピジョー劇場のマチネーを待つ少年少女、及び青年等の長蛇の如き列を見た。此列は年毎に、毎日曜日必らず見られる。初めて開かれたハル・ハウスに來た兒童の語る話を聽けば、これは彼等が見た芝居や、その午後の非常な出來事であつた。青年等は舞臺上の主人公の臺詞をもつて己の大望心を言ひ現はし、娘等は長くメロドラヤに用ひられて汚されてゐる詞をもつて、己のロマンチックの夢を物語つてゐる。こういふ點に着眼して、演劇を通して少年少女の品性を陶冶し、青年を感化せんとして、女史はこの事業に着手したのであるが、これ以外に他の動機もあつた、扨は演劇のために一身を誤まつてゐる恐可き弊害、から彼等を救ひ善良の氣風を造らんことにあつた。或娘は働き先きからの歸途いつも劇場に這入つてゐたが、終に俳優と駈落した。又或嚴格な父は娘の劇場に

足踏みするを斷じて許さなかつた。姉と妹とは絶望の餘り、一策を案じ、齒痛と稱して齒科醫の許に行き、一人が齒の治療を受くる間に、他は竊かにテーブル上の金の齒冠を盜んだ。そして毎晩働き先きの歸りに劇場に行つた。惡事は露見して、警察に引かれた。こうした悲慘な事實を見聞きして、遂に女史は劇場を設くるに至つたのである。

そしてハル・ハウスの舞臺は、敎育と保養を與へるのみでなく、若き生命の表現場たらしめた。初は客室、後はギムナジユームで、更に專門の劇場を建築する運に迄進んだ。北米合衆國紀念日にはピリグリムス・ファザー、クリスマスにはロングフェローのゴールデン・レゼンドを演じた、兒童も青年も大人も喜んで役割を引き受けた。

移民等もこゝに樣々の演劇を催した。ハル・ハウスの附近には、希臘人の大きな移民部落があるが、彼等は米國々民が、彼等の光榮ある歷史も古典的背景をも全然理解しないとに不滿を抱いて居た。そして他の無學な移民等と同一にさるゝことを、殘念に思つてゐた。然るに彼等は今や米人を

して彼等の價値を認識せしむるの機會が來たと考へて、ソホクレスのアジヤクッスを、その古典の本文その儘で演ずることに定めた。專門家の援助の下に、困難な身振や臺詞等も飮み込んで、大なる成功を贏ち得た。伊太利移民等は、彼等中の一劇曲家が、老いた祖國出の父母と、新思想を呼吸してゐる米國生れの彼等の息子との間の、新舊思想の衝突とでもいふべき劇を書いて舞臺に上した。觀客中の多くの老伊人等が、涙を流した程、それは眞に迫つたものであつて、彼等の家庭ではこゝに多く學ぶ處があり、家庭の悲劇を未然に防ぐ知識を受けたといつてゐる。その他の移民も亦實演しショウ・イブセン・ガルスウォーシイや童話劇なども演ぜられた。

（L）

尙ほ多くの記す可き女史の事業や、我等の參考となる可き彼女の活動があるが、餘り長く貴重なる紙面を費やすことを虞るゝが故に、こゝには今一二のことを記して筆を擱かう。

女史は協力といふことを重んじた。各方面にある社會事業と社會事業家とは好く提携す可きである。又或善き計畫を實現し、或は惡弊を除かうと思ふならば隣人や若くは市民をして協力し活動せしむべきである。決して社會事業の當事者だけが活動す可きでないといふ主張で働いてゐた。日本の大都市は現在糞尿の始末に惱んでゐるが、塵芥の問題はどうやら片づいてゐるやうである。今から廿五六年前の市加古市抔は、隨分野蠻なもので物の屑や腐敗した食物、魚の骨抔、鋪床道路に朽ちてこびりついた塵芥箱の中に堆積してゐた。全市を通じてその樣な有樣で、一種の臭氣が漂ふてゐて、夏期などは一層堪へ難い。殊にハル・ハウス附近は多くの希臘、伊太利の果物野菜の行商人等が腐敗した賣れ殘りをこゝに捨て、又襤褸切れ拾ひ等が選り擇けた殘滓を用捨なくすてるから一層不潔であつた。この塵芥の山で、ヨチ〳〵歩きの幼兒が初めて確實に歩くことを學ぶ、少年はそれを丸めて投げ合つて遊ぶ、戀人同志はこゝに隱れて喃々と語る有樣である。女史はこの弊を矯めるためには、隣人をして組ましめて是を燒棄せしめ、後に輿論を興起して市に處分せしむるに至つた。市街の破損の看視や警備制度や賭博場の閉鎖など、悉く隣人をして協力せしめた。ハル・ハウスの地下室に三箇の浴室を設けて無料で入浴せしめたとが、後市をして二萬圓の資金で公設浴場を開かしむる基になつた。長くハル・ハウスに住んでゐたスチーブンス夫人といふのが、警察から不良少年少女の看視者といふ半官的の位置を委ねられた。數年間この位置にあつた後、初めて設けられた少年裁判所の役員となり、後廿一名の所員の長となつた。不良少年少女問題は、此頃痛心す可き問題であつたのである。

今日のユニバーシチー・エキステンションの如き事業も起して社會教育に盡力した。ハルハウスの社會クラブも却々大な効果を擧ぐるに至つた。青年法律家、學者、成功せる教育家、新聞記者、がこゝから出身した。『花の如き幼兒等に美はしき衣服買ひやる若き主婦』に途中行きあつて、『アダムス先生私を御承知ですか。ハル・ハウスで御厄介になつたものですが』と言はれることがある。女史は言つてゐる、廿年の日月を經た今日、斯る見知らぬハル・ハウスの關係者、ハルハウスの結べる果である事實に米國の各地にて出會ふと。

日本にても社會殖民事業は、今後漸次に開拓さる可き重要の社會事業と思ふ。（畢）



直木博士の講演を聽きて（中）

附錄　英國の勞働者と日本の智識階級

管理人の見たる借家人百癖

會員　A　B　C

一言も御發言なさらない、其の御行儀の良い事は御子たちの御手本になりさうです。

よく世間樣で仰有る、『借りもの〻猫のやうだ』とは、此の如な御方の事を申上げるんではないかなんて失禮な事を、たまには考へて見る氣も御座います。併し管理人には此の如な方が一番こわいので有ります。集會の席上なぞで、若し建具の具

借家人百癖

一　遠慮深い人

居候者の集會が有つても、遠慮して、御出席にならない、又御出席になつても、人々の後に行儀良く、御座りになつて、開會より閉會に至るまで

合が悪いとか、雨漏りがしたり其他家屋の故障が有りましたら、御遠慮なく管理人まで、御申出で下さるやうに、尚ほ成る可くならば、數が多いので、忘れる事もありますから、書面にして届けといて下さるやうにと御願ひしといても、中にはどういふものか一回も御申出にならない方が御座います。

では、此のやうな御方の宅には少しも故障が無いか、と申しますと、決してさうではなく、雨漏りもすれば、建具の具合も悪いのです。

其にもかゝはらず、管理人の處へは、少しも申出られずに、奥さんは御近所の奥さん連と井戸端會議を開會して、管理人の不徳をせめられます。誰れそれさんや誰れそれさんの家ばかり、修繕に行つて、宅の修繕は少しも仕てくれませんのよ、ほんとうに此處の管理人は、不公平ですわ、なんて。

御主人公は御主人公で、經營者側の幹部へ、直接談判をして抗議を申込まれます。

なんとこわいではありませんか。こんな事と知つたなら、管理人も、在學時代に、幾何や代數で苦むよりも、借家人の胸中を察する事が出來る樣に、福來博士の御弟子にでもなつて、千里眼の稽古でも仕とけば良かつた、と今になつて悔んで居ります。

要するに、管理人が悪いから、右樣の遠慮深い借家人に御滿足を與へる事が出來ないので、管理人は八百屋さんや、魚屋さんと同樣に、毎日修繕箇所の御用聞に參れば、遠慮深い借家人も御滿足なさる事だらうと思はれます。

善は急げで、氣が付いた其日から、時々大工を廻らして、修理をさせ居りますが、何處迄、御遠慮深いのか、大工が廻つた時には一二箇所の修繕しか命ぜられずに、二三日たつと又井戸端會議を開會して、管理人の不徳を、せめて居られますやうです。

以前居た、江戸ッ子の、修繕大工は、口の悪い男で、此の如な遠慮深い御方の事を、失敬千萬にも、『女の腐つた如な人だ』と申しました。

女の腐つたので幸ひ、若し魚の腐つたのでした

ら、時節柄石炭酸でもまいて『コレラ』の豫防でもせねばならん處でした。

二　米國式外交家

外交辭令の御上手な事と、人を利用する事の御上手な點と、權利は如何なる些細な權利でも、頑強に主張なさる丶點に於て、亞米利加の一流外交家にも比敵する樣な御方がある。

一寸往來で行會つても『まあ〳〵しばらくで御座いました事（其の實四五日前に會つたばかりである）一度是非〳〵（此處語調を強めて）御伺ひ申さうと思つて居りますんで御座いますが、勝手ばかり致して居ります、御母あさまの御病氣は如何で御座いますか』と、くるから、やつかれたるもの面喰らはざるを得ないのである。

此が出勤の途中でゞもあれば、まだしも、夕刻歸宅の際などであると、はてな、今朝出勤の時迄は御丈夫だつたのに、留守中に急病でもなすつたのかしら、なんて餘けいな心配をして、

『エーッ……ナ……病氣？』、とでも言ふたが最後、其の語調と顏色で、ちや—んと御察しなすつて『あ—あ御丈夫でいらつしやいますか、其はまあ何より御結構で御座います、御母あさまも昨年はだいぶ御わるらいなさいました樣で、御座いましたが、本年は御丈夫でまことに御結構で御座います、御宅樣の御母あさまなぞは、年一年若くなられますのか、御丈夫で御元氣でいらつしやいますから、私なぞは兎ても兎ても及びませんで御座います、ど—ぞ、御歸りになられましたら、御母あさまに、よ—ろしう、御つしやつて下さいませ又貴方樣も奥樣と御一しよに、是非御遊びに御出で下さいませ、宅の娘がいつも申して居りますので御座いますよ、奥樣の御手すきの時に是非御琴の御稽古が願ひたいと申しますし、父は父で娘が女學校で習ひます英語が、下手なもので御座いますから、奥樣の處へ毎晩勉强に上るようにと申して居りますので御座います、それに……』此ちらには一口も喋らせずに、無言で聽いてたら、日が暮れても獨りで喋つて居られるだらうと思はれる。殊に其の御言葉を

聽いてると、大道易者が亡者を相手に、

易者『御前の家の裏庭に松の樹が有るだらう』

亡者『イーエ有りません』

易者『無くて仕合せ有たら御前の命にかゝわる』

と言ふたとかいふ言葉を、思ひ出さずには居られません。

御家庭は頗る御圓滿で、御主人公が外國から御歸りの時なぞは、門司か長崎迄御出迎になられて歸路別府温泉に一週間も御滯在なされた位である其時の事であるが、御出發の時、やつがれの母に向つて『主人を出迎に一寸門司迄行つて參らうと思ひますので御座いますが、御承知の通り宅には女學校へ行きます娘一人と、書生が一人きりで御座いますから、私が留守になりますと、世間樣の口がうるそう御座いますから、此んな失禮な事を御願ひ申しまして、まことに申譯も御座いませんが、ほんの一日か二日かで御座いますから、夜分だけ御隱居樣に泊りに來ていたゞくわけには參りませんで御座いましようか』と、申されるので母は『私は別に用事の無い身體で御座いますから、宜しう御座いますとも、御ゆつくり御出なさいませ』と云ふ樣な具合で御出發になられたのであるが、一日か二日處か、別府に一週間其れに往復の日數を加へて十日以上御歸りになられず、其間毎晩夜食後泊りに行かれるのは勿論、やつがれの宅で風呂を沸かして書生さんなぞを御入れ申して居りましたが、やがて御夫婦が御歸りになられますと書生さんが一つの菓子折を御持參になられまして、永々御隱居樣に有難う御座いました、主人夫婦が宜しう申して居りましたと、御挨拶なされたいけで、其後ち其の御夫婦に母が御目にかゝつても、御夫婦共日頃外交辭令の御上手なのにも似合ず其事に付いては一言も禮を申されませんので、天保文久時代に生れて頭の古い母はやつがれに向つて『菓子折なぞはほしくないが、御夫婦から一言の禮がほしかつた』と、申されますから、やつがれは母に向つて『そういふのが今日の流行なのです』と申上げると、母は『さよかいなー、あゝ云ふのが流行かい、其では禮を言ふてもらうと思つた、私が惡かつた』と言はれました。

其後ち其御夫婦が東京へ御遊びに行かれた時には、御近所の或る御老人が泊りに行つて居られましたが、御夫婦が御歸りになつて後、やつがれの母と同樣な事を申されてましたが、其御老人も今日の流行を御存じないと見へまする。

其代り其御夫婦は權利を主張なされる點になると、如何なる些細な事でも決して他に讓歩をなさらないので御座います。

そこで、やつがれは、つくづく考へますのに、其の御夫婦の爪の垢でも煎じて、腰の弱い某國の外交家にでも飲ましたいと思つて居りましたのに惜しい事には、其御夫婦が他へ移轉なさいましたので、其の御爪を頂戴する事が出來ません事になりました。（つゞく）

災害は天才を奬勵すること多し（ウッオト）

××歩いてみて

修生

算用數字をひつかき廻したように目まぐるしい大阪にも、都市計畫法が施行せられたる時代になつて來た。

幹線道路でさへ、どす黒い家の庇が凸凹して、昨今夏になつて漸く街路樹の存在が認められるといふ心細さ。立派な藝術作品でも、十把一束の粗製品でも、凡て算盤で割り切らねばすまされない人士の集りだから、街路樹は虐げる位は尤もと默頭かれる、鐵骨でさへ熔けだしさうな日盛りでも街路樹に灌水してゐるらしい人も見受けない處なのだ。勢ひ他は可然御推量と言ひ出したくなる。併しながら、折角書き出したものを、浮世三分五厘と、人生もろとも胡麻化してゆくのは勿論本意ではない。以下大阪を見た斷片を、其儘に書きつらねて試る。

まづ三階の窓から眺望する。蒸氣が立昇るやうに築き上げられた大建築が、環境を異端者扱ひにし、貧弱な單色のマッスは互に混沌と重なり合つてゐる。惠まれた蒼空の半ばは煤烟に汚されて、混濁と脅威は不斷の渦を卷いてゐる。

自稱東洋一の商業都市も、是では何となく氣づかはれてならない。上つ調子にも程がある。

次に大通りを步いてみる。煤けた重々しい空氣の裡には、到底調和しさうもない、ゴシックの建築が見ゐる。途方もない奇怪な裝飾のついた復興式の建築が影をひいてゐる。「セセッション建築とは直線式建築の謂なり」の代表的作品も見られる。そして其等が相挾撃してゐるやうな不安と動搖を漂はしてゐる。建築家達

が、ペンや鉛筆で黒と白とを描いて、様々な線にばかり思ひを凝らして、非常に美的効果を左右する、周圍の狀況や色彩の量に關する注意を忘れてゐるのらしい。

つゞいて川岸を通つてみる。

『ペニスを偲ばせる』とばかり、一廉の尊稱を奉られた水の郡だけれども、函根に架せられてゐる鐵道鐵橋の親戚筋が、老ぼれて仕方なさゝうに架つてゐる。途方もない大きなライオンを、歩哨に立たしてゐる微温い石橋がある。自轉車が通つてさへグラ〳〵する、虫の出さうな木橋もちやんと架つてゐる。それでゐて平然と、東洋のペニスを振りまわしてゐる得意さは、物質的に齷齪して餘裕のない、皮相な俗衆生活を最も雄辯に物語つてゐる。如何にも慘なことだ。

街燈の夜を見る。

新らしく設けられた街燈は、或は當局者苦心の作とも言はれやうが、斷面の三角な支柱から、重苦しいペンキの色に至るまで、何度見なほしても藝術味のないこと甚しい。そして折角の美くしいランプの光が、只地上の僅を照らしてゐる外には、センターポールの頂上を保守してゐる、炭火のやうなランプが認められるのみである。何といふ心細いことだらう。凡てに於て、自分と對象との間に、何時も純眞な生命の共感を見出して、あらゆる事物を生かした儘に見やうとする態度——一切を感じ味はうとする生活を解することの出來ない、生命の泉が渇れかゝつた人達ばかりの都市なのだから、無理もない。柔らかにグローブを透して綠樹を綴る街燈の夜の情調は、あり合せの計算や法則では、とても得られないのが當然だ。恐らくグローブを代用してゐる鐵製の笠も、二一天作の五の賜なのだらう。

そこで、私は一先づきり上げることにする。書いてゐるうちに、うつかり筆が辷つて大變な勢になつて了つた。けれども、如何程大阪人士が辯解の言葉を連ねやうが、此頃のように、匆忙繁劇の算呂盤生活に人生を誤魔化してゆく人々には、宗教と藝術は緣の遠いものである。唯事物の表面をかすつて行くのみで、味つたり考へたりする生命力の余裕のないことは、決して否認の出來ない弱点なのだ。充實しない生活からは、大きい藝術の生れ出ないのが當然なのだ。高遠な都市計畫の完成も是では極めて覺束なく思はれる。

半周を顧望して

翠煙生

◎百尺階上、我事務室直前の玻璃窓を透して、華城半圓百八十度を顧望す。

◎綠黛漸く濃く、葛赭の波紋を帶びて、蜒蜿西に流れある武庫山脈、六甲、摩耶、鐵拐の諸山緩く坡脚を水平に落して糢糊。南、葛城、金剛の山脈紀泉平野を匍ふて雲際を摩し、其盡る處、緩き岬角を成す。而して、茅渟灣其兩坡間に展開し、華城西域の富源を成せり。西日本の大都市、富の大生產所たる華城を鳥瞰せば、嶙峩として滿都を埋める建物の、奈何に貧弱さ、奈何に無統一さよ、而して時代錯綜の都市なるよ、竟に、渠は畸形的都市なるを免れざるなり。

◎矮小なる瓦葺の家屋、連軒交錯、掌大の間地をすら遺さず右に左に斜に横に、逼ほ、遺利ある處眼眸、敏慧に輝く大阪ッ兒の人格を書き出して、申分無し。

◎七層樓、五層樓、花崗石のあでやかさ。セセッション、ゴシック、近代複興式、扨ては、何式と世界文化の中心、佛都、英京、米市にだも尚且つ容易に發見し得られざるかの感ある壯麗雄偉の建築物、華城に陸離の鮮彩を放てる光鋩裡、沈呻、幾世紀の昔を其儘に、時代が置き忘れたかの觀ある城廓の角櫓と、寺院の堂廊、今尚ほ戰國史を語りつゝあるも可笑なものなり。

◎近來紐育に出現せる七十幾階の高層建築は、すば抜けて寧ろお笑草なるも、僅に三階建の洋館が恰も、竹竿でも立つたがやう、其處邊りにすば抜ける觀あるは、今尚ほ大阪滿都を埋める日本式家屋の貧弱さ加減推し測られて顰蹙。況して、三越白木屋抔七層樓の、奈何にも摩天閣の觀あるのは

何んとなく可笑しき心地す。

◎お役所式な二階建洋舘の頂點、恒に赤旗の翩翻たるあり。而して、それより南東數十メートル、『三十六商會』舘上、其隅角に掩堡式圓形のタワーを有す。同人曰く、『是が若も露西亞ならば、差向き、ボリシエヴイキの本部と、機關銃の掩堡ならむか。』とは桑原々々。

◎所謂林立せる烟突、强風、中空を馳すれば、煙亂れて水平に膨擴し、磅礴として滿天を掩ふの壯觀、張目に値ひすべきものあり。青紫色、黑色、黑褐色、薄鼠色抔、其工場主管者のあたまの加減が、煙突の煙に徵象せるも面白しき現象なり。

◎大都の眞ん中、目拔きの交通路に、セセッション建築の瀟洒に隣りて、黑煤けたる日本家屋の軒傾けるも見惡きものゝ一つなるに、況してや、物干棹に女の赤〇〇、國旗のごと飜りつゝあるは、澁柿喰つた心地せり。

◎華城の夜は、寔に暗き市にてあるなり。電燈と瓦斯燈の、暗中散點を成せる外、滿都の空らは何ものゝ光りもあらじ。若も、大阪都市を知らざる者、暗夜、高層より滿都の空らに眸を遣れば、漁火にもやあらむと疑ふも宜べなり。唯此の中に在りて、ドラッグ商會の illumination のみ幅利かせるは、遖に大阪也。

◎お役所の隣りは、しよつちゆう煙を渦巻いてゐる大工場、學校に軒を並べて、貿易屋さんの大商店、小賣屋さんの棟續きは、小形モーターをなりはいに何かの製造屋さん、九尺二間の棟割長屋がそれ等の間に、參嵯、横狹縱斜、電車の軌道に、自動車の Heispeed で文明風を切つて馳れば、今も昔も渝らざる大八車に牛の歩み、デパートメントの彼方には、昔ながらの紺暖簾に老舗を衿る「しもた屋」さん、何から何まで、光榮な過渡期在にる大阪都市。

◎何んと云つても、大阪の都は、少くとも、建築物に於て、漸次に良くなりつゝあり。されど、其反面に於ては、建建物其ものに、社會主義者の所謂有產階級と無產階級に譬ふべき階級的色彩は、增々際は立ち來れり。

◎扨てこそ、所謂都市計畫は、孰れの建物をも、

件の意味に於ける有産者たらしめむするに於て、

建築物に於ける一種の社會主義とも謂ふべけれ。

◎現在の大阪都市は階級的に雜駁交錯せる建物と交通と世帶、何んとしても、建築物社會主義者、都市計畫のお骨折り、却々の事と、今更ら乍ら、我高層事務室の窓際はに膀臂立てゝ、大阪の半圓を見渡しつゝ、斯くは思へり。

◎蔓嗟たる滿都の甍、小觀すれば、マッチ箱を横に縦に何の統一も秩序もなく寄せ集めたがよう、其貧弱さ加減は、岩蒸せる屋根瓦の波と共に、正さしく時代錯誤の象徴と謂ふべけれ。

◎されど、大觀すれば、揚悠大洋の流れに比すべく、眞に、滿都是れ時代の其れなり。流れ共もの

×

×

×

は、今も昔も渝らざれど、時代の波は、息みなく恒に其型と長さと高さを、一波は一波より異に、斯くて、悠久遷轉の相を現す。

◎華城の建築、今や、時代の流れは、此處に臻到して、婉然一幅の歷史畫なり。而して、斯裡、其進脚は、絕へず時の流れに添ふて息まず。華城が建築に於て、即ち建築の象徴する都市生活に於て眞に華城たむむは、果して、何れのときぞ。

◎顧みて、百年後の我日本建築協會を想はゝ、現在、微力なる我等の仕事も亦奈何に光榮あるかを銘せずばあらず、其日暮しは理想ある悠久の世界に生くる人の仕事に非るなり。

手輕にして文化的な生活

工學士　葛野壯一郎氏夫人　葛野しの子

もう七八年を郊外の池田に住つてをりますが、郊外生活といふ事に就ては、別段に不自由を感ずるやうなことはありません。殊に池田は、舊市街の方は割合に大きな商店等もあつてよく整つてをりますので、日常の買物や暮しには大して差支へもないやうに思ひます。それに大阪の方には度々出掛けますので、その度に必要のもの等は纏めて買物をして歸りますから、幷うした方面には殆んど馴れてしまひました。只大阪と池田との間に電車の時間が三十分かゝりますから、少し急ぐ時などは焦れつたく思ふこともありますけれども、それとても、市内電車でも端から端へ行く時は一時間も以上も費えますので、その積りでしたら忍べない事もないでせうと思つてをります。

郊外生活に就いて一番不自由に感ずる事の多いでせうと思はれますのは水なのです。御存じのやうに大概井戸水を使つてをりますので、水道のやうに便利に手輕にといふ譯にはゆきません。一々くみあげて使ふのですから。その點はスキッチ一つを捻つて思ふまゝに出せる水道からみますと、いろ〳〵不便に思ふ事が多いのです。幸ひ池田邊りの水は、まだ質は宜しいさうですが、十三邊りになりますと、とても飲料水としては用ひられぬさうでして、水を荷なつて賣りに來るといふことです。宅では井水を一度濾して使つてをりますがもう一つ市内の大概の家のやうに、家屋内にもパイプを引いて各必要の室は自由に水の出せるやうに出來ましたらと思ひますが、それにはいろ〳〵建築の方からまた變へたい點もありますので、只今では思ふばかりでまだ思ひ切つて手をつけても

ゐません。一層自由に出來るやうになりましたら、水も湯も始終スキッチ一つで取り出せるやうに備へつけて、といつも私は思ひます。

只今の處では、臺所と居間とを居心地よく便利に改良する事が一番急務でございませう。光線の取りやう、空氣の流通、それは申す迄もありませんが、殊に臺所等は今迄日本家屋では一番粗末に手輕に扱はれてゐたものですから、臺所の爲めに受ける不自由、不經濟は隨分眼に見えぬ損失であつたでせうと思ひます。

私は、臺所は極く狹くていゝ、と思ひます。そして板敷でもタヽキにしても、なるべく平にして上つたり降りたり目まぐろしく動かないで、體を落ちつけたまゝで何でも左右から簡單に取り扱ひの出來るやうにしたいと思ひます。それには室の中央に料理臺を一つ置く事と、室内の四方には出來る丈け棚を多く作つて片付きよくすることです。幷うなれば、自然臺所に費す時間が尠ければそれだけ女中等の手もはぶける事ですから、其上に電氣や瓦斯の使用がもつと一般的に日常家庭用として安價に使へるやうになりましたら、私達の時間もいくらか、餘裕あるものになるでせうと思ひます。

私は本當に手輕な簡易な郊外生活をしたい爲めに、靜かな、非常に空氣のいゝ、又景色のいゝ所で、例へば能勢邊りにでも、小さき家を建てゝせめて一週に一度でも其處に遁れて靜かに外界の煩雜を避けた暮しをしてみたいとはいつも考へてをりますが、まだ實現する迄にはなりません。その家は極く小さなもので、所謂コッテージ風の手輕なものなんです。無論洋風の方がいゝとは思ひますが、如何でせうか、私達永い傳統を有つ日本人の生活には、まだ〳〵疊の上のしんから濶ろいだ生活がよく心に添ふてゐるやうに考へます。それで出來るならば贅澤のやうですが、二重でも三重でも、境遇の許す限り和洋折衷などの家屋に住み得たらそれに越した事はないでせうと思ひます。

私も近頃散歩服位ゐの程度で外出の時は洋裝を被てをりますが、殊に夏の間はもう和服を着て、あの厚く重たい帶を締める事はとても我慢が出來

ない位ゐの洋裝の輕さ便利さを感にました。洋裝も贅澤にすれば限りないことですが、普通寶石などの高價な裝飾を用ひなければ、ずつと和服よりも安價で出來るのです。日本服も式服や、或は少し上等の訪問服になりましたら、決して着物ばかりでなくそれに揃へて帶から下着の類まで、隨分高價なものになります。殊に日本の下駄などは非常に不經濟なものですが、そんなに比較しましたら和洋共に變りはありません。洋裝の是非などもいろ〳〵人々の主觀に依つて異ふことでせうけれど、私は自分の信ずる處を實行に移す事は差し支へないと思ひます。私はもつと洋裝の弘く實用化する事を望んで居りますが、來年頃になりましたら、日本婦人の洋裝も一層一般的になるでせうと思つてをります。

豫め後日に備へ用度を節し規律を立つるの三ツの者は、不幸なる時運を修治するの技術者なりと云ふべし。（サムエル）



「時報」

法案

◎借地借家調停法案

現行借地借家法が前議會の協賛を經たる際貴衆兩院の希望條件として貸借人間に於ける爭議調停の爲調停法を制定すべしとの附帶決議をなしたるに基き司法當局に於ては是非共來議會に右法案提出の豫定を以て之が立案準備に着手することゝなりたるに就き同省にては池田書記官主任となり既に諸種の調査材料蒐集なども了し起草着手準備全く成りたるを以て愈々暑中休暇明け次第起草に着手すべしと云ふ右に關し聞く所に依れば同法案は內容簡單のものなるを以て其脫稿完成にはさして長時日を要する譯にあらざる由なれば來議會提案には十分間に合ふべく尙ほ同法は最初之を全國一律に施行すべしとの說ありしも差當り之を借地借家法施行地域に限り施行するの方針にて立案せらるべしといふ而して法案の大體の主旨は當該係判事が嚴正批判者として利害相反する借地借家人對する地主借家主間の爭議を單に權利義務の繩墨のみを以て律せず双方の事情を斟酌し公平圓滿なる和解を遂げしめんとする所謂社會政策的立法にして若し之にても尙和解出來ざる際に茲に初めて普通裁判所に依つて其解決を求めんとするものなりと

都市計畫

◎都市計畫答申案

內務省より諮問ありたる大阪都市計畫區域に對する答申は大阪市を始め關係市町村たる堺市他七十箇町村に於て夫々審議の上所轄郡役所を經て大阪府都市計畫課に送達し來り八月十五日全部纏りたるより同課にては直に之が整理に着手し仝十九日午後結了其結果を發表したり即ち諮問されたる二市七十箇町村中大阪都市計畫編入に條件付にて贊成せるは

十一箇町村（大阪市、堺市、平野鄕、住吉、玉出、今宮、鷲洲各町、南百濟、川北、千船、

（福各町村）

編入に全然不賛成なるは

二箇町村（濱寺町、豐中村）

にして他の五十九箇町村は無條件にて賛成せるなり而して條件付賛成市町村の條件なるものは大阪市を除く以外重要なるものなく殆ど問題とするに足らざるが重なるものを擧ぐれば左の如し

▲大阪市　内務省諮問の區域は餘りに大に過ぐるより一市四十七箇町村に縮小されたし▲堺市　地方委員を市會議員、市吏員中より相當任命されたし▲平野鄉町大阪市に通ずる運河を開鑿されたし▲南百濟村　關係町村長を委員に任命されたし▲千船、福村、今宮町　事業施行は關係町村の負擔力を考慮し實施されたし▲玉出町　諮問機關を町村に設けられたし▲川北村　大阪に通ずる道路を敷設されたし▲靈洲町　事業執行者が町長以外の場合は豫め町の意見を徵せられたし

又全然反對なる豐中村は目下村内に住宅經營中のもの多く且轉住し來る者續出し漸次市街地と化しつゝあれば編入の必要なしと云ひ濱寺町は事業の實施方法及び經費の分擔等不明なれば賛成する能はずと云ふにありて孰れも其反對する理由極めて薄弱なるものゝ如し因に右答申は八月十九日府都市計畫課より主務省に宛て申達したるが同省にては審議の上更に都市計畫大阪地方委員會に對し諮問し來る筈にて多分八月下旬頃となるべしと。

◎建築線指定開始

大阪府建築課にては市街地建築物法に依る建築線の指定は道路の効用と土地所有權に影響する所甚だしきものあり都市計畫事業中の重大要素として指定の方法並に建築線と道路境界線との距離等に就て豫め調査研究中なりしが漸く大體の方針を決定するに至れり即ち都市計畫區域内の六間幅以上の道路は一般の都市計畫設計として決定せらるゝもそれ以下の道路は都市計畫事業としての設計に包含せしめられざる筈なれば都市計畫區域内の六間幅以内の小道路網は之を市街地建築物法に基く建築線指定の方法に依つて計畫することゝし之に就ては大阪將來の交通に鑑み遺憾なきを期すべく調査を進むることゝし區域内の重要幹線道路に對しては大體方針として道路境界線より一尺五寸を後退して夫々建築線を指定することを原則とし例外として道路用地買收の長期に亙りて實施する見込なき場合に限り道路境界線より前進して建築線を指定し以て土地利用の制限を緩和することゝし其第一着として區域内の重要道路阪神國道に對し近日一尺五寸後退の標準を以て建築線の指定を爲すことに決したるが尙從來の道路に關係なき場所に對する建築線の指定に就ては廣き地積に於ける區劃整理に基く建築線の指定として未だ建築物敷地として利用せられざる廣き地積埋立地廣き燒跡等を調査したる上之に指定し其他美觀地區特殊地區等決定次第是等に對しても夫々指定する筈なりと

◎都市計畫新（施行）地

内務省にては都市計畫法第二條に依り左記卅五市を新に都市計畫を施行すべき都市に指定することゝし之が勅令案を法制局に廻附し目下同局に於て審議中なり

橿須賀、尼ヶ崎、長崎、新潟、長岡、前橋、高崎、宇治山田、四日市、津、豊橋、岡崎、濱松、大津、岐阜、大垣、金澤、富山、高岡、岡山、廣島、吳、下關、高松、松山、今治、福岡、門司、小倉、八幡、若松、大牟田、熊本、鹿兒島、高知。

都市施設

◎大阪市住宅不足

大阪市が大正七年末以來政府の低利資金及寄附金に依り建設したゝ市營住宅は一千百三十八戸にして目下大阪監獄跡に建設中の百九十二戸を加へ合計千三百三十戸に上り此の他市より低利資金を轉貸して建設せしめたる住宅は安治川土地の二百七十四戸、大阪住宅經營二百五十二戸、北濱土地の三百八十五戸此の合計八百十一戸並に目下大阪住宅の經營にて千里山に建築中のもの四百七十八戸あり市營及び住宅會社の經營によるものを合すれば二千六二十五戸に達すれども而して之れに要したる低利資金は五百萬圓に上り尙ほ本年度に於て申請中の大阪住宅經營百五十萬圓、安治川土地五十萬圓が貸下許可となれば更に約千戸の住宅を增加するに至にべしと因に內務省の調査に依る大阪市內外の住宅不足は約二萬戸にして政府の低利資金に依り市並に會社經營の住宅施設を合するも右不足に對して約一割五分に過ぎずと。

◎道路鋪裝試驗場

大大阪の都市計畫に伴ふ道路鋪裝は大阪市獨特の完全なるものにせんとの抱負を以て特に計畫部でではその設計並に試驗を市立工業研究所に一任せるが、研究所では之が爲めに特に試驗場を設くることゝし半箇年の計畫にて試驗に要する機械費三萬七千八百五十圓を主とし總計四萬三千八百三十二圓の豫算を組んで次回の市會に提出するとゝせり。

この試驗場は圓形とし從來歐米を始め我國の都市にも試みられあるタークレー、アスファルト、アスティンシープ、タービア、木煉瓦並に煉瓦等凡ゆる道路鋪裝を試み、磨滅、吸水、耐震、耐壓、硬度等の試驗を行ふものなり。

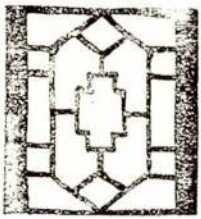
右の磨滅試驗は最も肝要にして、歐米の道路の如き主に自動車が、硬くともソリッドタイヤ位の外通らざるに比較し我國の如き幅厚き鐵車輪の荷馬車が頻繁に往復する道路ではその磨滅の度非常に甚だしく從來の如き歐米の鋪裝その儘を用ふることは頗る不得策にして斯の點に就き精細なる試驗を行ふに在り。

その方法は試驗場の中央に機械を裝置しこの機械に依つて鐵車輪を晝夜間斷なく廻轉させ而も其車は重量を容易に變更させる裝置のものにして之れに依つて磨滅試驗を行ふ

斯くして各種の鋪裝物の優劣を判別し更に施工金額をも考査して最も優秀なるものを選ぶことゝせりと。

◎住宅組合貸出額

住宅組合法實施以來各府縣に於て住宅組合設立及び貸付金の申請を爲し來れる組合數は二千九百五十九此組合員五萬八千六百五十人本年中に建設すべき住宅四萬五千九百十六戸此建設費一億六千八百二十四萬七千餘圓之に對する低利資金貸付要求額は一億四千五百三萬九千餘圓の多額に達し內務省は大藏省預金部並に遞信省貯金局に交渉するとも斯る巨額の資金融通には應ずる能はざるより更に內務省は申請組合の內容に付き審査を遂げつゝあるが該申込は五十坪以內の規定に依り申請し來れるが爲め其資金も增加せるものなるを以て其內二十坪乃至二十餘坪の住宅建設要求者に對し資金を供給するの方針を取り月收百圓見當の生活者の間に差當り便宜を與ふる事に內定し目下取捨選擇中なりと。



會報

會合

○理事會

△日　時　八月五日午後六時—十時
△會　場　本協會事務所
△出席者　池田、松本、瀨戸、平井、吉井
吉木、西谷（書記）
◁記　事　一、丸屋吳服店に關する件
二、博覽會に關する件　三、市街地建築施工の爲道路の一部に假設物設置許可建議案の件　四、雜誌廣告割引の件

○懸賞委員會

△日　時　八月八日午後六時—九時
△會　場　本協會事務所
△出席者　池田、平井、宗、中西、竹腰、野村、西谷（書記）
△記　事　一、第二回懸賞募集規定に付協議す

○懸賞委員會

△日　時　八月十二日午後六時—九時
△會　場　本協會事務所
△出席者　池田、平井、宗、中西、久保田
西谷（書記）
△記　事　一、第二回懸賞募集規定及審査員の選定、委員增員等に付協議決定せり

○例　會

△日　時　八月十七日午後七時—十時
△會　場　本協會事務所
△出席者　池田、小笠原、吉木、糸崎、中川、呼子、坪井、中澤、中西、島田、山本、久保田、長尾、原科、能村、西谷（書記）
△記　事　一、池田理事長代理の會務報告
博覽會事務報告について耐火構造促進及本會發展策に就ての討議あり。盛會裡に閉會す

會務

△暑中に際し叮重なる御見舞を賜ひし會員諸兄へ本欄を以て其御厚意を謝す
△建築材料規格見本品全部本協會事務所に陳列を了せり
△建築材料見本陳列棚に陳列申込を受けたる內、日本石綿盤製造株式會社及內外土

木建築材料會社日本セメント防水劑製造所は各製品見本の陳列を了せられたり

○會員消息

△會員大林賢四郎氏は八月十六日午後七時半大阪驛發及會員村野藤吉氏は同二十七日各渡米の途に就かれたり

△會員熊澤榮太郎氏は八月八日開業せられたる大阪建築所（大阪市北區堂島濱通四ノ三）に主任技師として勤務せられつゝあり。

○辭令

都市計畫地方委員會技師　大屋霊城

歐米各國へ出張ヲ命ズ（八月二十日）

○新入會員

（普通贊助員）吉松一氏

○住所移轉

丹下敏行氏　名古屋市外西春日井郡六郷村字大曾根二一一

保田虎太郎氏　大阪府下濱寺公園ヒヤク山

松本一太郎氏　大阪市北區曾根崎上三丁目

松浦基二氏　福山市船町二十二銀行支店内

大槻貞夫氏　東京市麹町區丸ノ仲通二五日本興業銀行建築場大林組出張所内

渡部圭吾氏　大阪市東區谷町四丁目九

野村理一民　大阪市南區天王寺勝山通三ノ三〇山崎建築事務所内

田代鶴吉氏　神戸市兵庫四代神樂町通五ノ三

和田貞治氏　兵庫縣武庫郡精道村深芦屋七一九

山口榮作氏　大阪市南區新世界公園通二ノ四高木別宅

西山銀吉氏　茨城縣多賀郡日立村諏訪釜役宅二七

○寄贈圖書

帝國鐵道協會々報　七號　同協會

滿洲建築協會雜誌　七號　同協會

住宅　八號　住宅改良會

建築雜誌　八號　建築學會

建築畫報　七號　建築學會

農家の友　八號　同社

國民經濟雜誌　八號　神戸高等商業學校

工業の友　八號　工業學校内其社

建築研究　八號　同會

電氣學會雜誌　八號　同學會

平民建築　八號　帝國工業教育會

工業の日本　八號　同社

材木新聞　六七三號迄　同社

金屬工業新聞　五年八ノ二迄　同社

建築業協會々報　七號　同協會

經濟資料　七、八號　東亞經濟調査局

都市公論　八號　都市研究會

新住宅　八號　洪洋社

住宅研究　八號　住宅改造會

住宅の間取及設備の改善　住宅改善同盟會

關西建築材料商報　一八二號　同社

役員及職員

副會頭　片岡安

理事　葛野壯一郎（理事長）
理事　波江悌夫（主記）
理事　瀨戸文吾（主計）
理事　横濱勉（編輯）
理事　小笠原銅（編輯）
理事　吉井長七（編輯）

理事　池田寶
理事　吉木久吉
理事　松本禹象
理事　平井三郎
編輯補　佐藤四郎
江村郊邨
書記　西谷節
武波泰
山崎萬壽夫

會員	一九九	會員（地方）	七八
名譽贊助員	七〇	終身贊助員	五二
特別贊助員	一五	普通贊助員	三三九
合計（八月二十日現在）	七五三		

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金五拾錢	貳錢
	十二冊	六圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ	

大正十年八月三十日印刷
大正十年九月五日發行（毎月壹回一日發行）

大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人　江村恒一

大阪市東區內淡路町二丁目卅一番地
印刷兼印刷人　大阪活版所

大阪市西區京町堀上通一丁目不動ビルデイング內
發行所　日本建築協會
電話　土佐堀四、二九三番
振替口座大阪三九九七五

大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番

●第四集　第九号　掲載広告一覧（掲載順）

川北電気企業社
日本水道衛生工事
浅海商店
池田稔事務所
出浦建築事務所
新海工務所
小笠原建築事務所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
宗建築事務所
国枝工務所
柳下建築事務所
舟橋建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所

遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
片岡松井建築事務所
東洋装飾
池田勘蔵
日本土木大阪出張所
橋本料左衛門商店
大林組
竹中工務店
長瀬組
中川辰蔵
野村亥之助
久保田組
熊取谷熊次郎
山本組

松村組
小西組
藤木正一
鴻池組
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
有山福重郎
木村組
清水組大阪支店
銭高組
森下新造
都市工業
山縣組
清水工務店
日本木材工芸
久原鉱業大阪出張所
山田大理石製作所

矢橋商店
吉田鹿之助商店
高田商会
須賀商会
内外土木建築材料
栄進社
松尾和助本店
山本窯業商店
萩原煖房工務所
新田ベニヤ製造所
南満鉱業
砂崎
別府ステインド硝子製作所
河村青写真調製所
山本コンベス商会
大野正営業所
東洋工業社
東京建鉄
有田製陶所

宇野沢組ステインド硝子製作所
コルク工業
日本工剤
鈴木製作所
大阪煖房商会
大阪電気商会
東京電気
高田商会銀座販売店
早稲田大学建築学科早苗会
川崎工場
北木島石材大阪出張所
ホーン
穴原商会
吉田鉄工所
大阪金物商会
淡陶
横河橋梁製作所
田中源太郎商店
極東硝子工業